

住民アンケート集計結果

1. 調査目的

新温泉町エココンパクトタウン構想の策定にあたり、住民の意向を計画に反映させると共に、再生可能エネルギーの周知と構想への参加意欲の高揚を図ることを目的にアンケートを実施した。

2. 調査概要

■調査内容

- 統計情報等では把握困難な過去、現在の暮らし方についての状況を、エネルギー面に関する空調、給湯、厨房を中心に把握する。
- 町が取り組むべき施策等の意向を把握する。
- エネルギーコストのプライオリティ（どの部分を削減したいか）やどれくらいの費用負担（1ヶ月）が許容できるかを把握する。
- 本構想策定に向けた町の取り組みや、エネルギー面での地域資源の活用手法等、普及啓発の機会とする。

■調査対象

本町の住民全世帯（5,329世帯）へ各区長等を通じて、紙媒体による質問票を、用語解説等の普及啓発資料を添え配布を行った。また同様に各区長等を通じて回収を行った。

■調査期間

平成23年9月7日～平成23年9月24日

■回収状況

配布数	5,329件
回収数	3,210件
回収率	60.24%
有効回答数	3,142件
有効回答率	97.9%

■調査項目

「回答者属性」「暮らし方について」「経済負担について」「町の取組方針について」「自由意見」について、計 15 項目の調査を行った。

表 1 住民アンケートの概要

調査項目	調査項目	目的
1. 回答者属性 (1 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> ・性別、年齢、職業 ・家族人数 ・家族構成（高齢者、子ども等） ・住居の種類（戸建て、集合住宅、木造、様式等） ※戸建て住宅については、昔ながらの住宅か近年見られる 在来住宅か等も写真等を用いて把握。 ・住居の築年数 ・居住地域 	属性の基本的な項目を把握
2. 暮らし方について (2 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> ○【過去・現在】空調、給湯、厨房におけるエネルギーの利用状況（種別） <ul style="list-style-type: none"> ・冷房（なし、扇風機、エアコン等） ・暖房（エアコン、ストーブ、ファンヒーター、こたつ、床暖房） ・風呂（ガス給湯器、電気温水器、薪、太陽熱温水器等） ・厨房（まき、ガスコンロ、電気コンロ、IHクッキングヒーター） ※それぞれ、電気、プロパンガス、灯油、薪等エネルギー種別を把握できるように設問を設定 ○【現在・今後】設備面での設置状況、今後の意向 <ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電、太陽熱温水器、薪ストーブ、低公害車等（電気自動車等）の設置および意向状況 ○【現在・今後】省エネルギー行動における状況および意向 	過去、現在、今後の暮らしにおけるエネルギー利用状況や省エネルギー行動に関する状況・意向を把握
3. 経済負担について (0.5 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> ・1ヶ月間の許容できる金額 ・どの部分のエネルギーコストを削減したいか。（ガソリン、電気（暖房、冷房）、ガス、薪等） 	コスト負担等や経済面から見た意向を把握
4. 町の取組方針について (1 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> ・新温泉町がとるべき姿勢 ・新温泉町が取り組むべき新エネルギー ・新温泉町が注力すべき施策 等 	町が取り組むべき施策意向を把握
5. 自由意見 (0.5 ページ)	<ul style="list-style-type: none"> ・新温泉町のまちづくりについて 	多様な意見を把握
普及啓発資料	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した暮らしのイメージ (太陽光、熱、風力等の紹介) ・町の取り組み 等 	普及啓発

《A4 版 8 ページ、質問項目数 15 問》

■調査結果概要

○回答者属性について

- 一戸建て（所有）、木造住宅の割合が9割と高い。
- 築年数の古い、昔ながらの住宅に居住する方が多い。
- 回答者、家族構成においても高齢者の割合が高い。

質問項目	結果概要
回答者の性別	男性：約5割、女性：約5割。
回答者の年齢	60歳代と70歳以上が多く、それぞれ約3割。
職業	無職が最も多く約3割、次いで会社員と主婦が多くそれぞれ約2割。
家族人数	2人が最も多く約3割、次いで3人が多く約2割。
家族構成	65歳以上を含む家庭が最も多く約5割。
住居の種類	一戸建て（所有）である場合が約9割。
戸建ての種類	昔ながらの住宅が約6割。
住居の種類	木造が最も多く約9割。
住居の築年数	30年以上が最も多く約5割、次いで20年以上30年未満と、10年以上20年未満が多くそれぞれ約1割。
居住地域	浜坂北小学校区が最も多く約3割、次いで温泉小学校区が多く約2割。

○エネルギー利用について

- 冷房は電力利用、暖房は石油利用の割合が高い。
- 風呂の給湯、台所の燃料はガス利用が主流であるが、「昔利用していた」の割合も高く、電気エネルギーへの流れが見られる。
- 一部温泉によって賄われている。

質問項目	結果概要
冷房	扇風機を利用している場合が約9割、エアコンを利用している場合が約8割。
暖房	石油ストーブ・ファンヒーターを利用している場合が約8割、こたつを利用している場合が約8割、エアコンを利用している場合が約6割。 湯たんぽを利用している場合は約2割。
風呂	ガス給湯器を利用している場合が約4割。温泉熱を利用している場合は約2割。
台所	ガスコンロを利用している場合が約7割。温泉熱を利用している場合は3%。
温泉配湯	温泉配湯を受けている場合は約2割。 そのうち、水を混ぜる等して温度を下げている場合が約9割。

○省エネルギーの取組について

- 「風通しを良くする」「日射しを遮る」など、夏の電力需要を抑える取組の割合が高い。
- 風呂での熱需要の削減、冷蔵庫の効率的な利用、照明機器の節電、早寝早起き等規則正しい生活リズムによるエネルギー需要削減については、努力が窺える。
- 省エネ機器の使用については、今後取り組みたいとの割合が高い。

質問項目	結果概要
冷房や暖房に関する こと	風通しを良くしている場合が約 8 割。 すだれやカーテンにより日射しを遮るようにしている場合が約 7 割。 冷暖房の設定温度を控えめにしている場合が約 7 割。
風呂に関する こと	家族全員が風呂に続けて入るようにしている場合が約 5 割。 シャワーの利用量を少なく済むようにしている場合が約 4 割。
台所に関する こと	冷蔵庫は中に物をあまり詰め込みすぎないようにしている場合が約 6 割。
移動に関する こと	近所への移動は自動車を使用せず、自転車や徒歩にしている場合が約 5 割。 エコカーや軽自動車等燃費性能の良い自動車を使用している場合が約 3 割。 エコドライブを心がけている場合が約 3 割。
その他の生活に関する こと	早寝早起き等で照明を出来る限り使わないようにしている場合が約 4 割。 省エネルギー性能の高いテレビを使用している場合が約 4 割。 省エネルギー性能の高い照明を使用することについては、今後取り組みたいとの回答が約 3 割。

○再生可能エネルギーについて

- 温泉熱利用や太陽熱利用など、熱需要を賄うための再生可能エネルギーの導入件数が多い。
- 薪等バイオマスへの関心も高い。
- 導入の理由、導入できない理由ともに、コスト面に関する理由が挙げられている。
- 再生可能エネルギー導入に伴う不便もおおむね許容できるという意見が多いが、労力を必要とするものについては許容されにくい。

質問項目	結果概要
認知度について	太陽光発電、風力発電については、よく知っているという回答した場合が約 3 割。太陽熱利用については、よく知っているという回答した場合が約 2 割。
関心について	最も関心がある再生可能エネルギーは、太陽光発電、風力発電、太陽熱利用の順で多く、これらで約 3 割。
導入状況について	温泉熱利用を既に導入している：384 件 太陽熱利用を既に導入している：103 件、導入を検討中：19 件。 太陽光発電を既に導入している：48 件、導入を検討中：50 件。 薪・ペレットストーブを既に導入している：30 件、導入を検討中：27 件。
導入の理由	光熱費・燃料費を削減したいから：約 6 割。 地球温暖化の防止に貢献できるから：約 1 割。
導入できない理由	コスト面での導入効果が不明であるから：約 5 割。
許容できる不便	天気等に左右され、変動が発生することは許容できるという回答が多く、約 2 割。次いで、省エネルギーにより室内が暗くなることを許容できるという回答が多く、約 2 割。逆に、薪や炭等の燃料確保のために労力がかかることについては許容できるという回答が少なく、6%。

○経済的負担について

- 冬の電気代や暖房用燃料代など熱需要に関する費用が多い。
- 環境のための経済的負担については、多少であれば許容できるという意見が多い。

質問項目	結果概要
光熱費のうち減らしたい部分	冬の電気代、夏の電気代を減らしたいという回答がそれぞれ約 4 割。冬の燃料代を減らしたいという回答が約 3 割。
許容できる負担について	月 500 円未満なら負担してもよいという回答が最も多く約 3 割、次いで月 500 円以上 1,000 円未満なら負担してもよいという回答が多く約 3 割。

○新温泉町の今度の取組について

- コスト面に関する補助や情報を求める意見が多い。
- まずは公共施設への導入を望む意見も多い。

質問項目	結果概要
町として力を入れるべき施策	再生可能エネルギー等の導入に際しての助成制度の充実に力を入れるべきという回答が最も多く、約 4 割。 公共施設への再生可能エネルギー等や省エネルギー設備の導入をすべきという回答が約 4 割。
再生可能エネルギー等や省エネルギーの設備を導入する際に欲しい情報	設置に関する費用を知りたいという回答が約 5 割。 助成制度の内容とコスト面での導入効果を知りたいという回答がそれぞれ約 4 割。 設備の仕組みを知りたいという回答が約 3 割。

○共同出資による再生可能エネルギー導入について

- 共同出資による再生可能エネルギー導入への関心は高い。

質問項目	結果概要
参加への意向	参加してみたいという回答が約 2 割。 出資したい金額は、1 万円から 10 万円の間が最も多い。
出資金以外の参加の条件	出資金以外の参加の条件については「特になし」が最も多く、約 2 割。 「元本が戻ってくること」が約 1 割、「配当金があること」が約 1 割。

3. 調査結果

A. 回答者属性

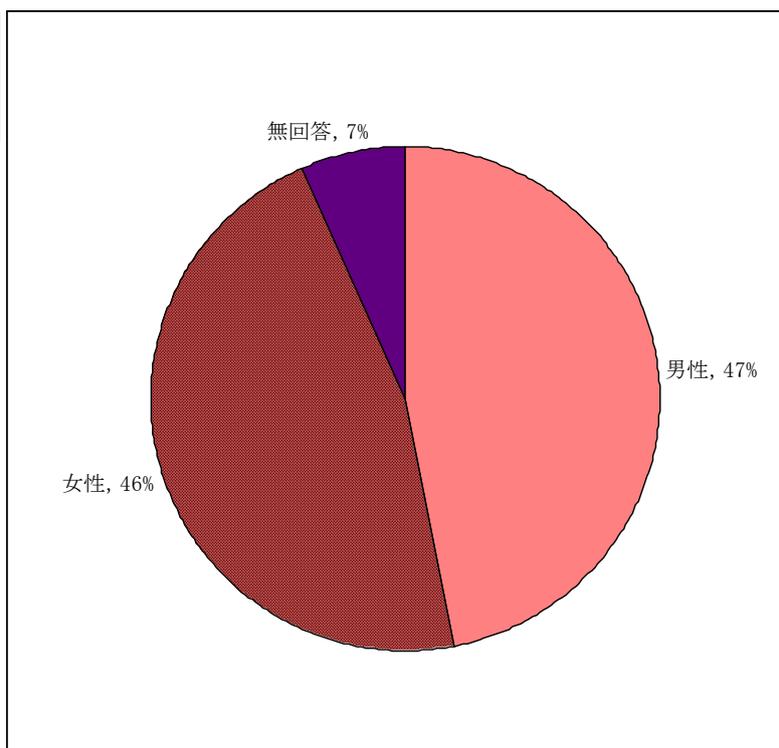
問①. 以下の項目それぞれについてあてはまる番号を1つずつ選び、○を付けてください。

1) 性別

男性が47%、女性が46%とほぼ同数であった。

図 1 性別

選択項目	件数	構成比
男性	1,477	47%
女性	1,454	46%
無回答	211	7%
合計	3,142	100%

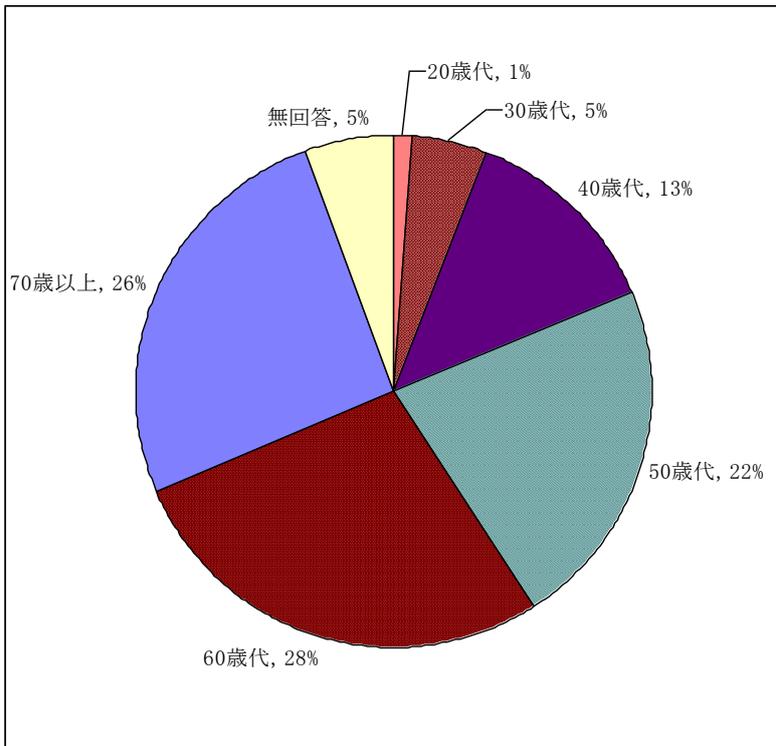


2) 年齢

60歳代が28%と最も多く、次いで70歳以上が26%と多い。

図 2 年齢

選択項目	件数	構成比
20歳代	31	1%
30歳代	155	5%
40歳代	395	13%
50歳代	705	22%
60歳代	870	28%
70歳以上	815	26%
無回答	171	5%
合計	3,142	100%

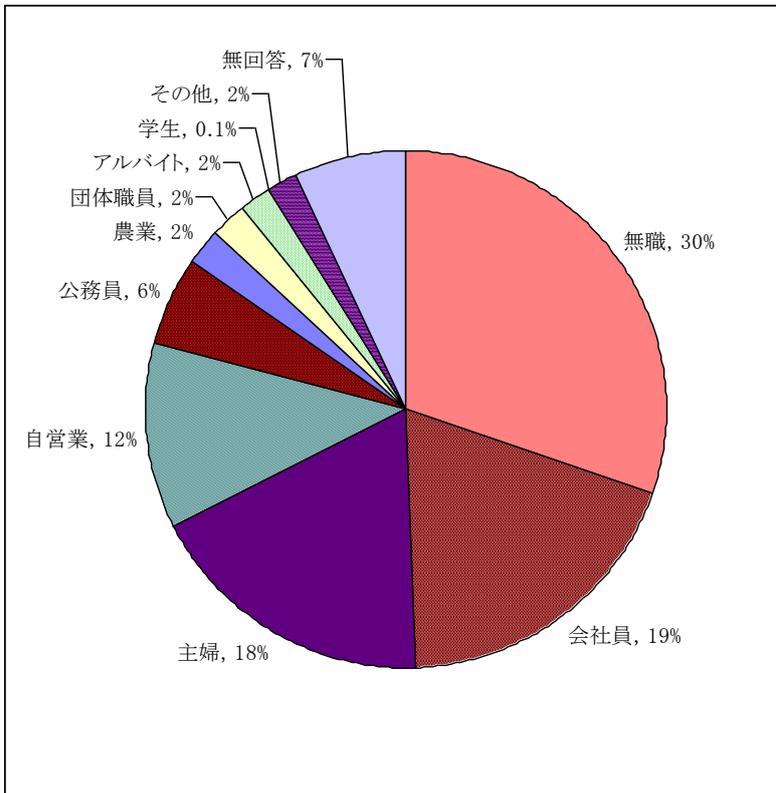


3) 職業

無職が30%と最も多く、次いで会社員（19%）、主婦（18%）の順となっている。

図 3 職業

選択項目	件数	構成比
無職	951	30%
会社員	599	19%
主婦	575	18%
自営業	362	12%
公務員	179	6%
農業	70	2%
団体職員	69	2%
アルバイト	54	2%
学生	4	0.1%
その他	62	2%
無回答	217	7%
合計	3,142	100%



【その他の回答】

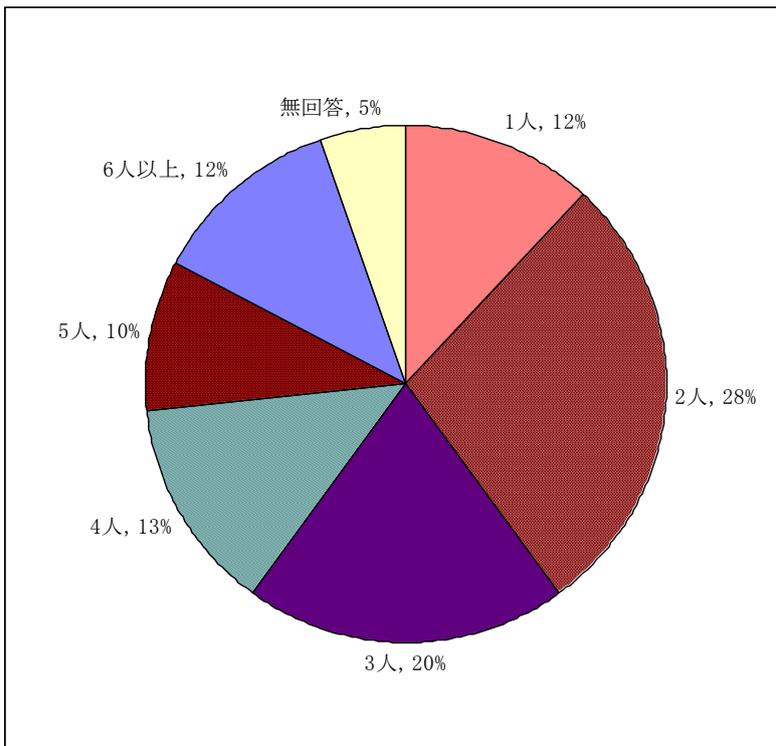
漁業 (6)、嘱託職員 (3)、
 臨時職員 (2)、美容業 (2)、
 サービス業 (2)、会社役員、
 公益法人役員、宿直代行員、
 病院職員、製造業、職人、
 マッサージ師、商業、自由
 業、法人、PC内職

4) 家族人数

2人が28%と最も多く、次いで3人が20%と多い。

図4 家族人数

選択項目	件数	構成比
1人	372	12%
2人	881	28%
3人	628	20%
4人	420	13%
5人	301	10%
6人以上	370	12%
無回答	170	5%
合計	3,142	100%

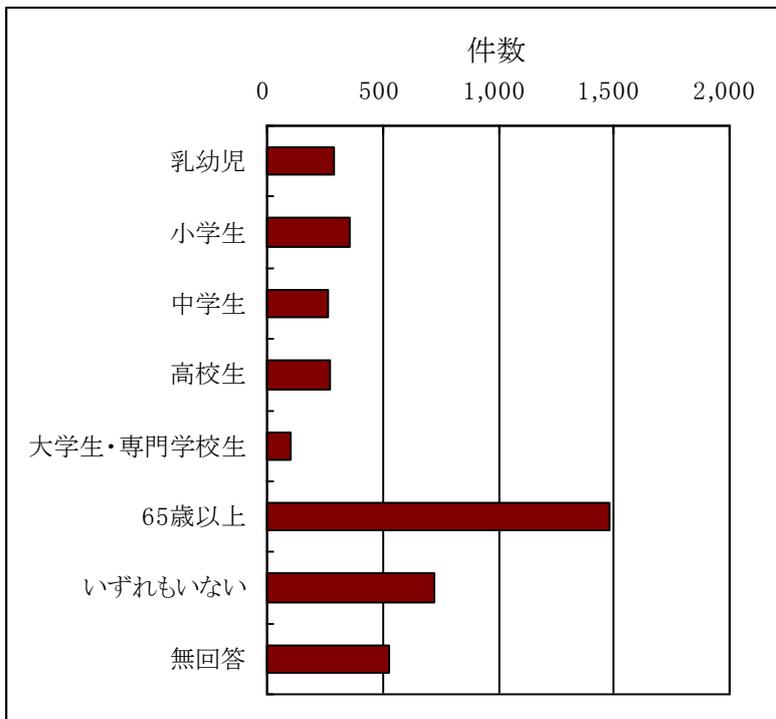


5) 家族構成

65歳以上を含む家庭が1,477件と最も多い。

図5 家族構成

選択項目	件数	構成比
乳幼児	286	9%
小学生	354	11%
中学生	264	8%
高校生	271	9%
大学生・専門学校生	102	3%
65歳以上	1,477	47%
いずれもない	726	23%
無回答	526	17%
合計	4,006	128%



6) 住居の種類

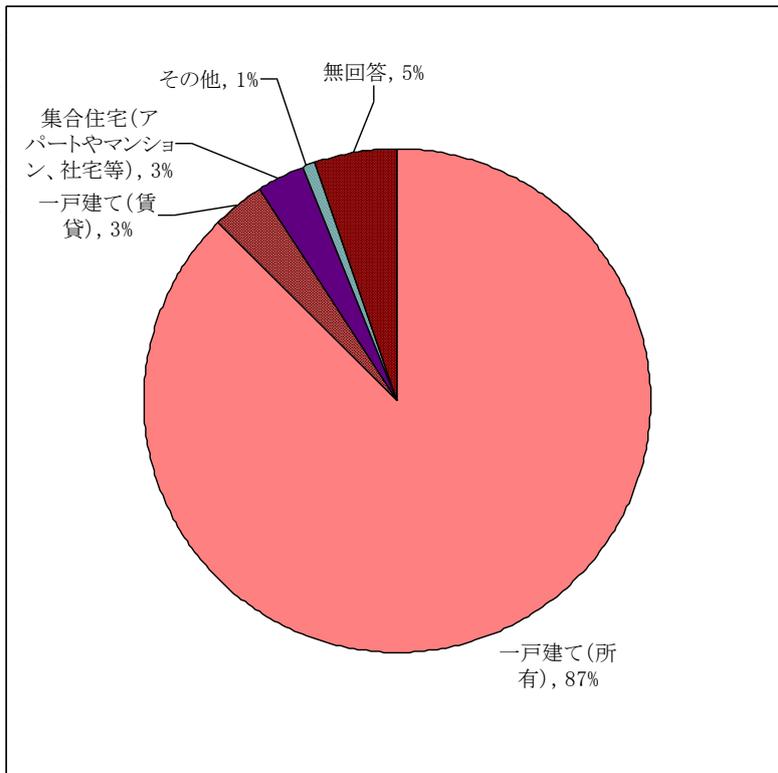
一戸建て（所有）が87%と圧倒的に多い。

図 6 住居の種類

選択項目	件数	構成比
一戸建て(所有)	2,745	87%
一戸建て(賃貸)	108	3%
集合住宅(アパートやマンション、社宅等)	95	3%
その他	32	1%
無回答	162	5%
合計	3,142	100%

【その他の回答】

社宅、賃家、間借り、事業所、法人、長屋賃貸、店舗

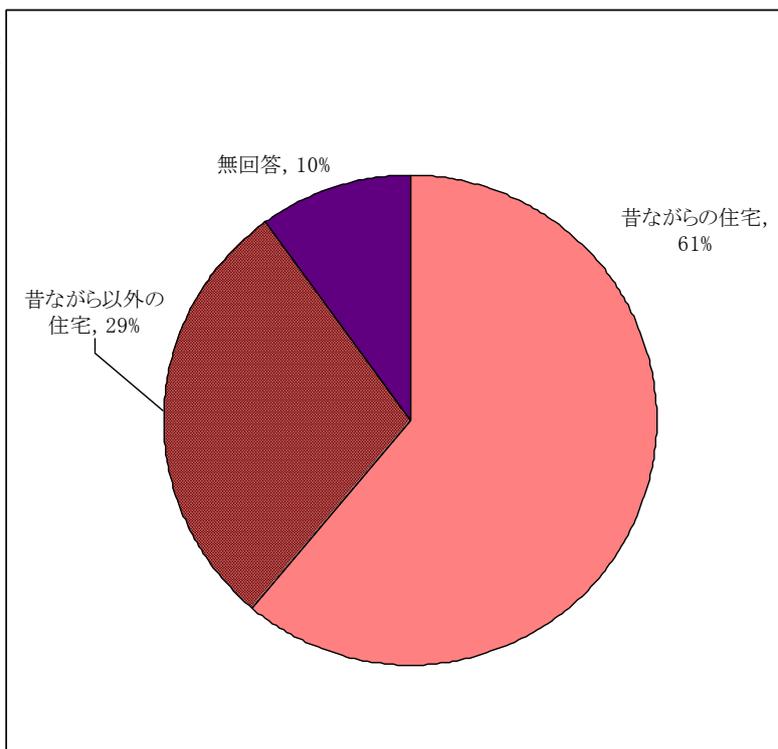


7) 戸建ての種類

昔ながらの住宅が61%と多い。

図 7 戸建ての種類

選択項目	件数	構成比
昔ながらの住宅	1,919	61%
昔ながら以外の住宅	913	29%
無回答	310	10%
合計	3,142	100%



7) 住居の構造

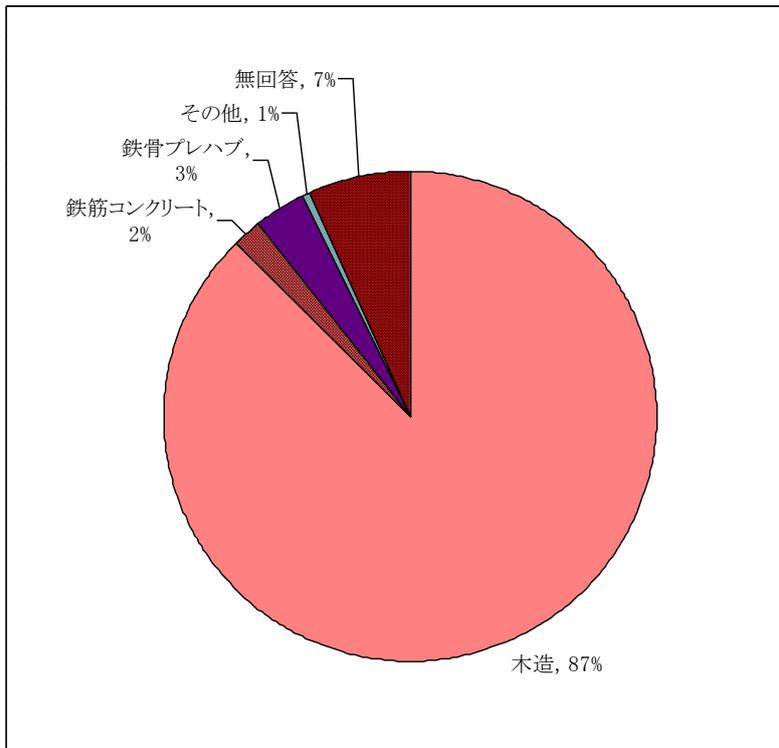
木造が 87%と圧倒的に多い。

図 8 住居の構造

選択項目	件数	構成比
木造	2,749	87%
鉄筋コンクリート	61	2%
鉄骨プレハブ	101	3%
その他	21	1%
無回答	210	7%
合計	3,142	100%

【その他の回答】

半鉄骨 (5)、鉄骨、軽量鉄骨、ブロック、一階ブロック

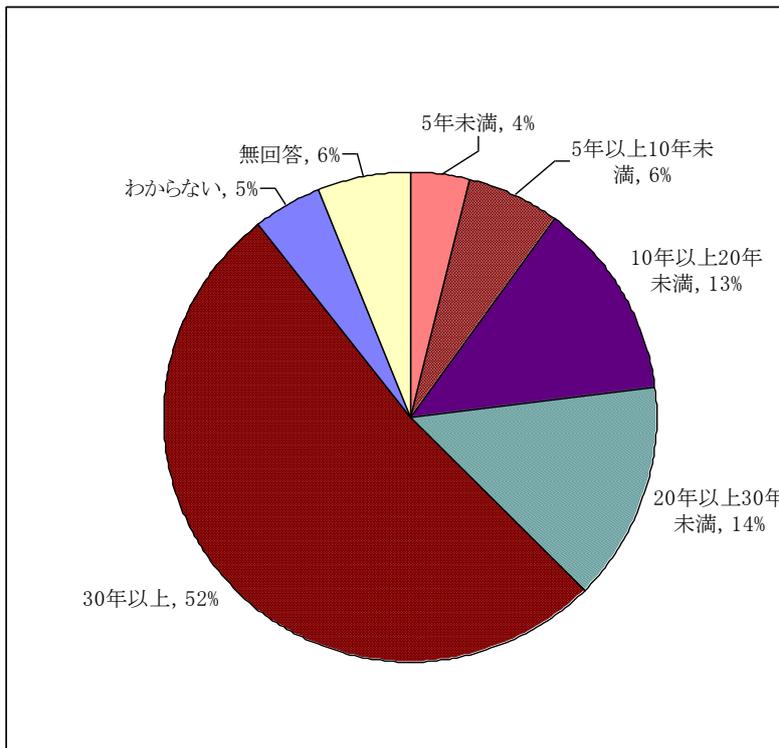


8) 住居の築年数

30年以上が 52%と最も多く、次いで 20年以上 30年未満が 14%、10年以上 20年未満が 13%の順となっている。

図 9 住居の築年数

選択項目	件数	構成比
5年未満	119	4%
5年以上10年未満	199	6%
10年以上20年未満	405	13%
20年以上30年未満	452	14%
30年以上	1,632	52%
わからない	147	5%
無回答	188	6%
合計	3,142	100%

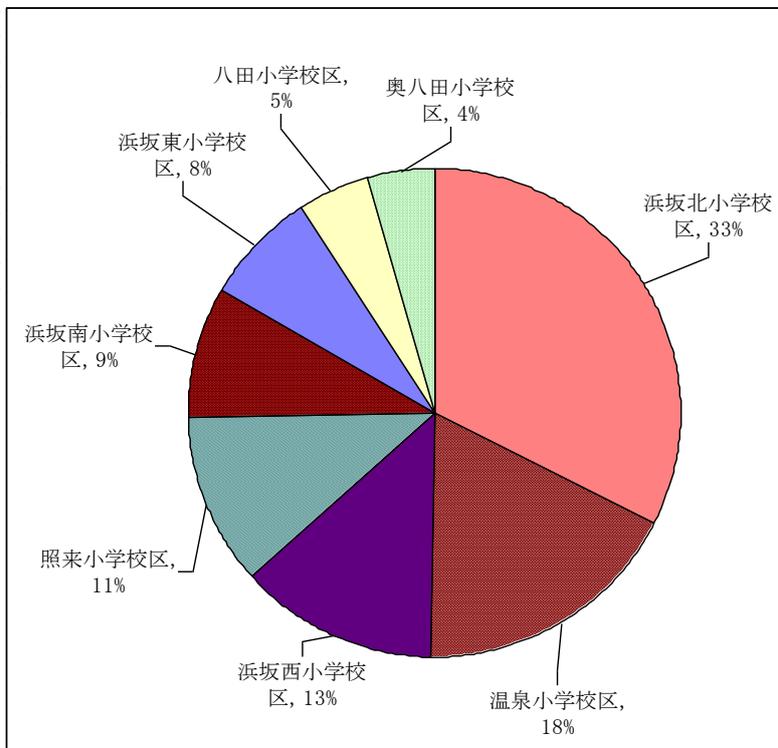


9) 居住地域

浜坂北小学校区が 33%と最も多く、次いで温泉小学校区が 18%、浜坂西小学校区が 13%、照来小学校区が 11%の順となっている。

図 10 居住地域

選択項目	件数	構成比
浜坂北小学校区	1,023	33%
温泉小学校区	553	18%
浜坂西小学校区	411	13%
照来小学校区	359	11%
浜坂南小学校区	275	9%
浜坂東小学校区	237	8%
八田小学校区	145	5%
奥八田小学校区	139	4%
無回答	0	0%
合計	3,142	100%



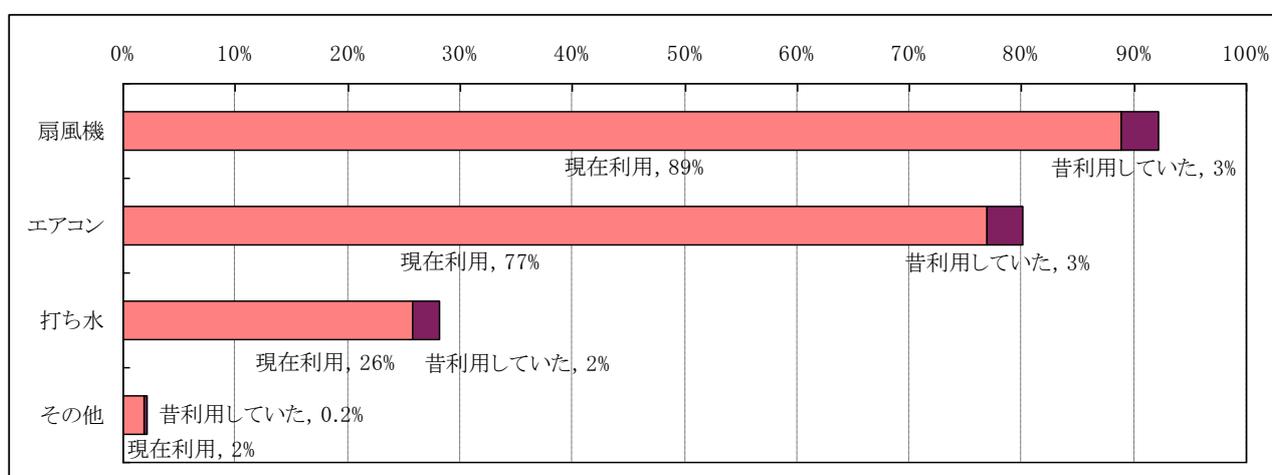
B. エネルギー利用状況について

問②. 昔および現在の生活の中で、台所やお風呂等でのエネルギー利用状況についてそれぞれあてはまるものに○をつけてください。また、現在利用していないが昔利用していたものに○をつけ、何年前ごろまで利用していたか年数をご記入ください。

1) 冷房

「扇風機」と「エアコン」を現在利用しているとの回答が、それぞれ 89%、77%と多い。「打ち水」を行っているとの回答は 26%であった。

図 11 冷房



選択項目	現在利用	昔利用していた	利用していない	合計
扇風機	2,790	105	247	3,142
	89%	3%	8%	100%
エアコン	2,418	99	625	3,142
	77%	3%	20%	100%
打ち水	808	78	2,256	3,142
	26%	2%	72%	100%
その他	59	6	3,077	3,142
	2%	0.2%	98%	100%

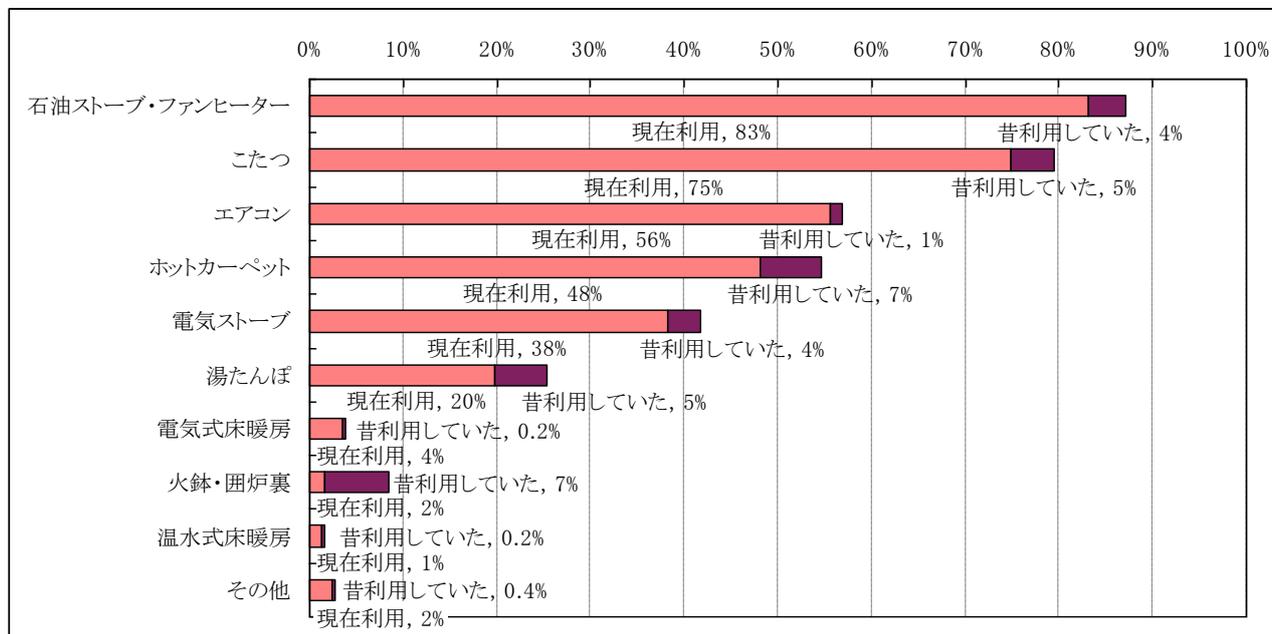
【その他の冷房】

すだれ (10)、みどりのカーテン (9)、団扇 (9)、立て簾 (6)、冷風機 (3)、自然風 (3)、換気扇 (2)、氷

2) 暖房

「石油ストーブ・ファンヒーター」を現在利用しているとの回答が83%と最も多く、次いで「こたつ」(75%)、「エアコン」(56%)、「ホットカーペット」(48%)の順となっている。「湯たんぼ」を現在利用しているとの回答は20%であった。「火鉢・囲炉裏」は昔利用していたとの回答が7%であった。

図 12 暖房



選択項目	現在利用	昔利用していた	利用していない	合計
石油ストーブ・ファンヒーター	2,610 83%	126 4%	406 13%	3,142 100%
こたつ	2,350 75%	147 5%	645 21%	3,142 100%
エアコン	1,744 56%	41 1%	1,357 43%	3,142 100%
ホットカーペット	1,510 48%	206 7%	1,426 45%	3,142 100%
電気ストーブ	1,202 38%	111 4%	1,829 58%	3,142 100%
湯たんぼ	622 20%	172 5%	2,348 75%	3,142 100%
電気式床暖房	111 4%	7 0.2%	3,024 96%	3,142 100%
火鉢・囲炉裏	51 2%	215 7%	2,876 92%	3,142 100%
温水式床暖房	42 1%	7 0.2%	3,093 98%	3,142 100%
その他	74 2%	12 0.4%	3,056 97%	3,142 100%

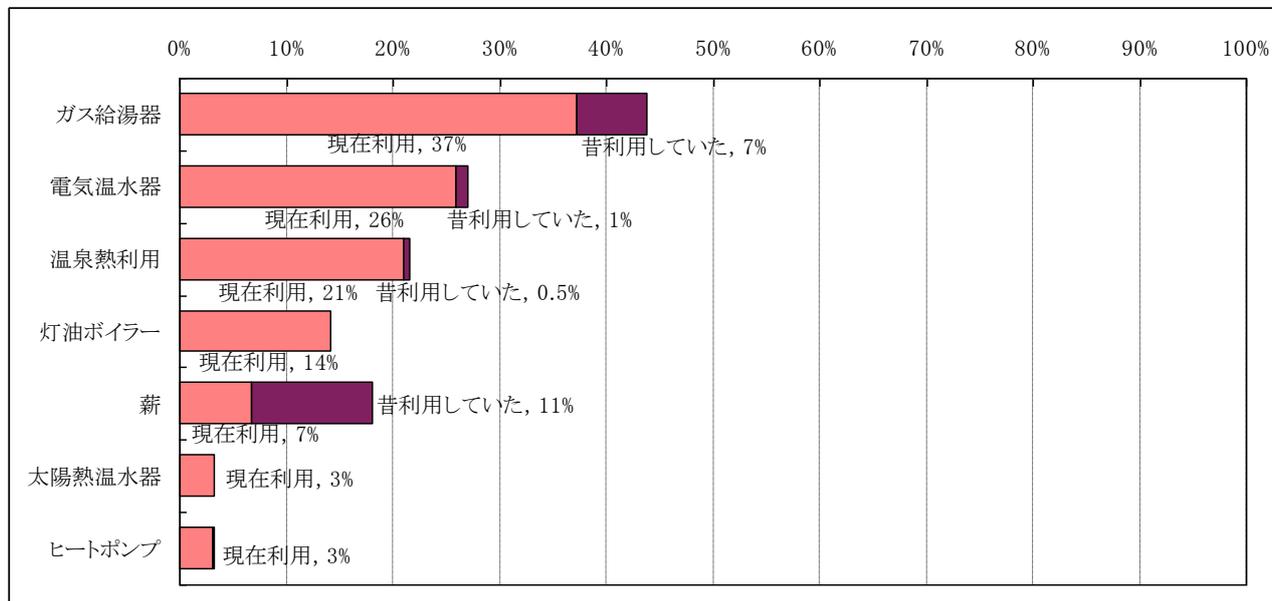
【その他の暖房】

ガスストーブ・ガスファンヒーター (15)、電気あんか (12)、電気毛布 (11)、豆炭こたつ (11)、灯油ボイラー (10)、薪・ペレットストーブ (7)、レンガ熱による蓄熱暖房機 (5)、練炭こたつ (5)、豆炭あんか (4)、オイルヒーター (4)、電気座布団、ハロゲンヒーター、加湿温風機、服で調節、敷毛布、かいろ

3) 風呂

「ガス給湯器」を利用しているとの回答が、37%と多い。次いで、「電気温水器」が26%、「温泉熱利用」が21%、灯油ボイラーが14%の順であった。薪を現在利用しているとの回答が7%であり、昔利用していたとの回答は11%であった。

図 13 風呂

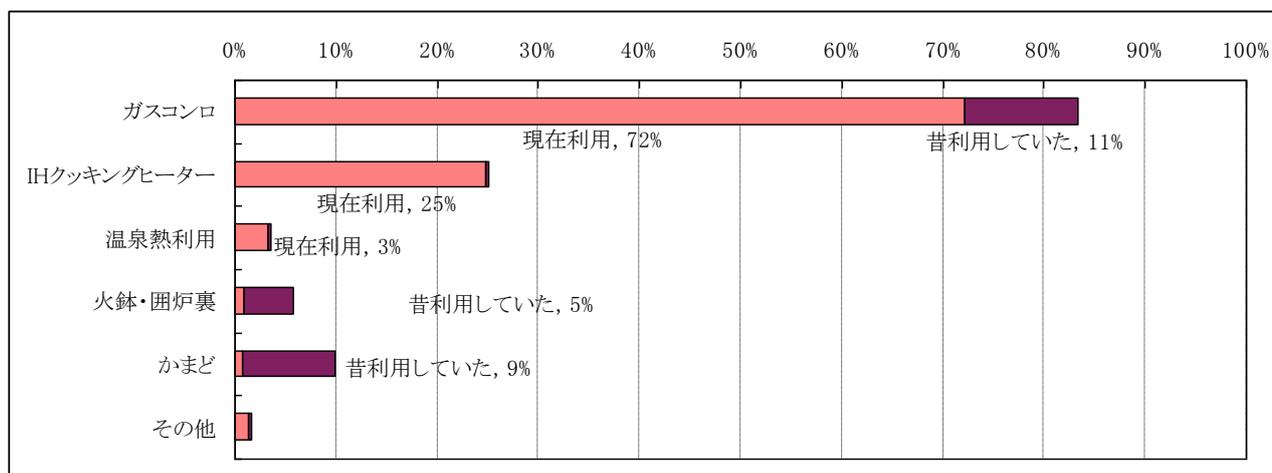


選択項目	現在利用	昔利用していた	利用していない	合計
ガス給湯器	1,171	206	1,765	3,142
	37%	7%	56%	100%
電気温水器	814	32	2,296	3,142
	26%	1%	73%	100%
温泉熱利用	660	15	2,467	3,142
	21%	0.5%	79%	100%
灯油ボイラー	445	0	2,697	3,142
	14%	0%	86%	100%
薪	209	360	2,573	3,142
	7%	11%	82%	100%
太陽熱温水器	103	0	3,039	3,142
	3%	0%	97%	100%
ヒートポンプ	97	5	3,040	3,142
	3%	0%	97%	100%

4) 台所

「ガスコンロ」を現在利用しているとの回答が72%と最も多く、次いでIHクッキングヒーターが25%と多い。「温泉熱利用」は3%が現在利用しており、風呂で利用している場合よりも少ない。かまどは9%が昔利用していた。囲炉裏は5%が昔利用していた。

図 14 台所



選択項目	現在利用	昔利用していた	利用していない	合計
ガスコンロ	2,266	351	525	3,142
	72%	11%	17%	100%
IHクッキングヒーター	779	9	2,354	3,142
	25%	0%	75%	100%
温泉熱利用	102	11	3,029	3,142
	3%	0%	96%	100%
火鉢・囲炉裏	30	150	2,962	3,142
	1%	5%	94%	100%
かまど	23	289	2,830	3,142
	1%	9%	90%	100%
その他	44	5	3,093	3,142
	1%	0%	98%	100%

【その他の台所】

灯油ボイラー (19)、電子レンジ (6)、ガス給湯器 (5)、七輪 (5)、卓上ガスコンロ (3)、電気コンロ (2)、電気プレート、ガス炊飯器、電気炊飯器、電気温水器、太陽熱温水器、ストーブ

問③. 特に、温泉湯を利用した様々な取り組みについてお聞きします。

(1) あなたのご家庭では、温泉からの配湯を受けていますか。(はい ・ いいえ)

(2) 温泉湯の利用方法について、**あてはまるものを1つ**選び、○を付けて下さい。

①水を混ぜる等して、温度を下げて使用することが多い

②そのままの温度で使用することが多い

③加熱して使用することが多い

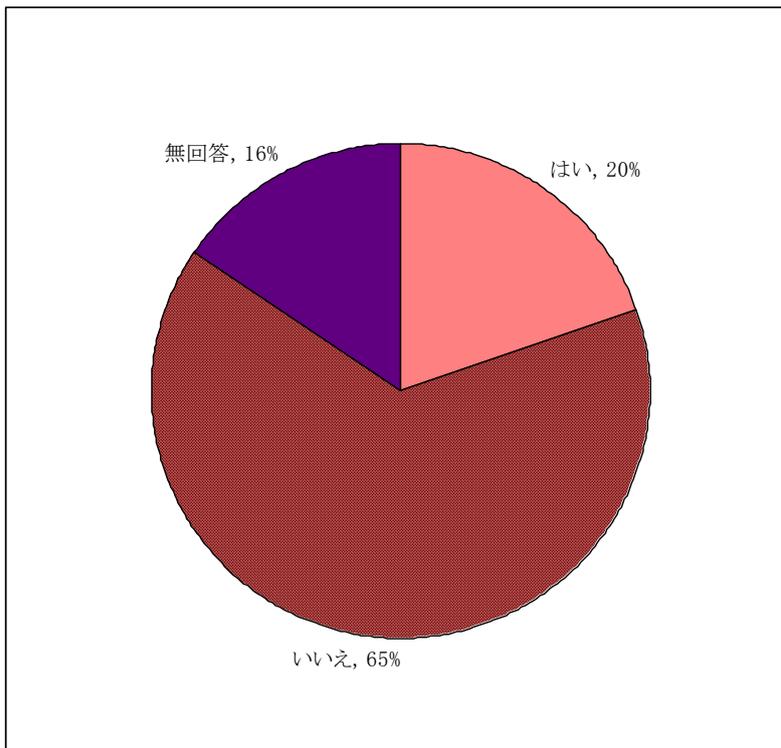
④その他 ()

1) 温泉からの配湯の有無

配湯を受けているのは 623 件であった。

図 15 温泉からの配湯の有無

選択項目	件数	構成比
はい	623	20%
いいえ	2027	65%
無回答	492	16%
合計	3142	100%



2) 温泉湯の利用方法

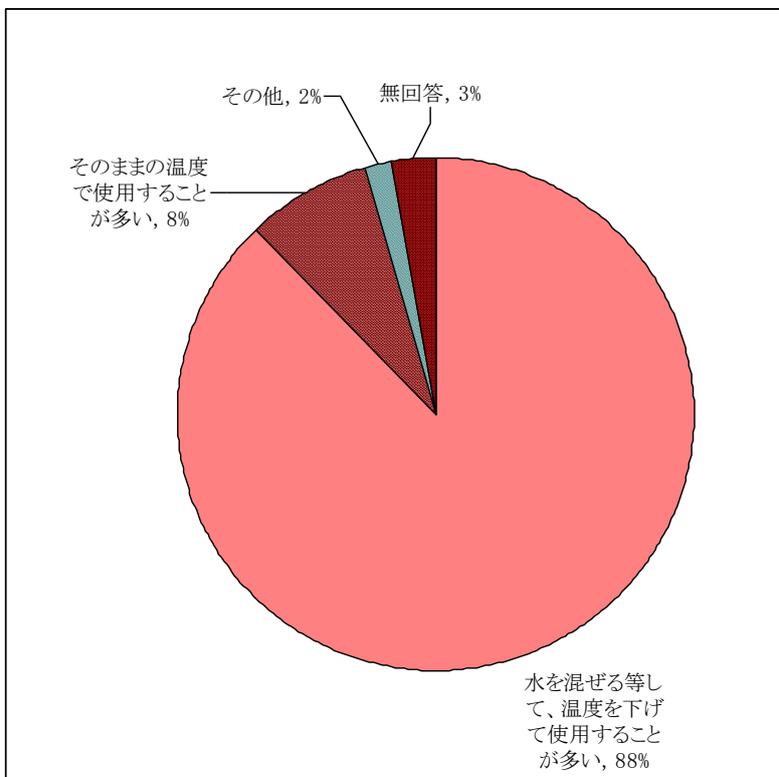
「水を混ぜる等して温度を下げて利用する」との回答が 88%と最も多く、40～50℃まで下げて使用する場合が最も多い。

図 16 温泉湯の利用方法

選択項目	件数	構成比
水を混ぜる等して、温度を下げて使用することが多い	547	88%
そのままの温度で使用することが多い	48	8%
加熱して使用することが多い	1	0%
その他	10	2%
無回答	17	3%
合計	623	100%

【その他の利用方法】

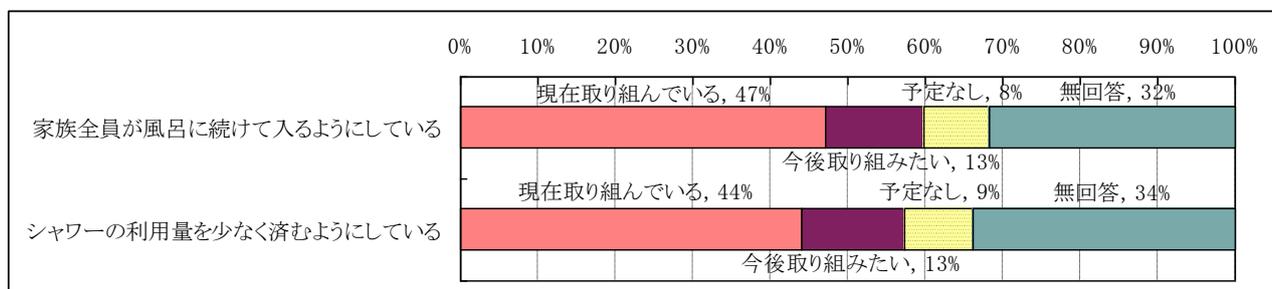
- ・ 夏は水を混ぜて温度を下げ 冬はそのままの温度で使用する (5)
- ・ 温泉が出るまで 1/4 程度は冷水のため、そのまま多く出す
- ・ 季節を考慮し、水を混ぜることのないように工夫する
- ・ 残り湯を洗濯に使用している (2)



2) 風呂に関すること

家族全員が風呂に続けて入るようにすることに現在取り組んでいるという回答が 47%、シャワーの利用量を少なく済むようにすることに現在取り組んでいるという回答が 44%であった。また今後取り組みたいという回答はそれぞれ 13%であった。

図 18 風呂に関すること

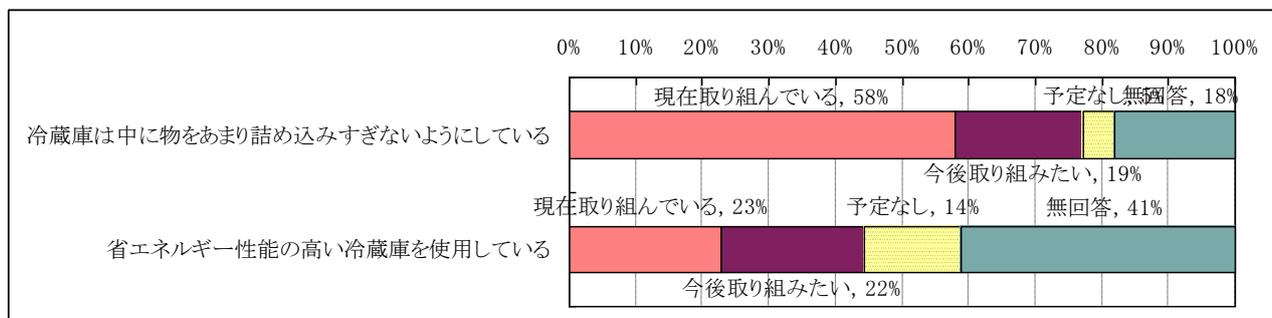


選択項目	現在取り組んでいる	今後取り組みたい	予定なし	無回答	合計
家族全員が風呂に続けて入るようにしている	1,481	401	265	995	3,142
シャワーの利用量を少なく済むようにしている	1,385	418	276	1,063	3,142

3) 台所に関すること

冷蔵庫は中に物をあまり詰め込みすぎないようにすることに現在取り組んでいるという回答が 58%、省エネルギー性能の高い冷蔵庫を使用することに現在取り組んでいるという回答が 23%であった。また今後取り組みたいという回答はそれぞれ 19%、22%であった。

図 19 台所に関すること

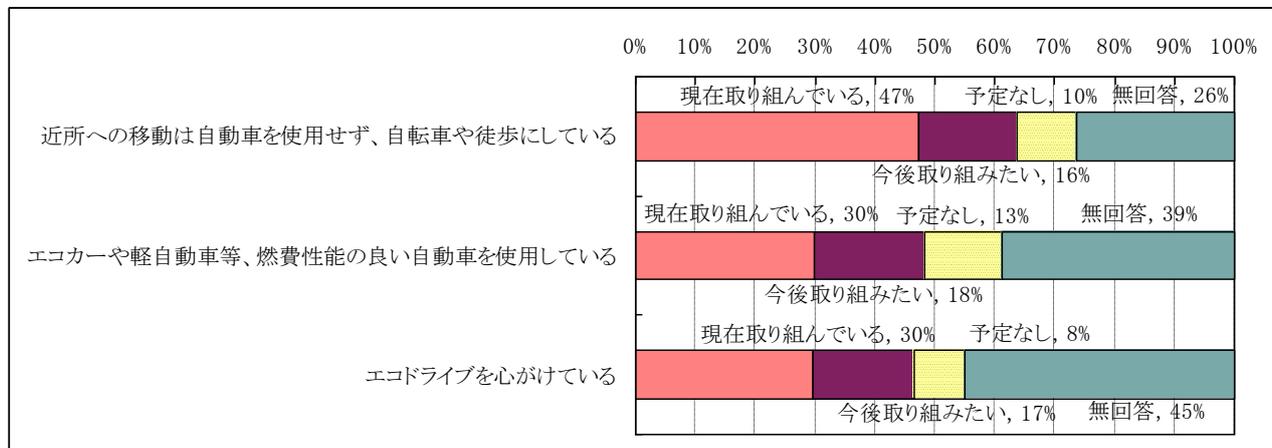


選択項目	現在取り組んでいる	今後取り組みたい	予定なし	無回答	合計
冷蔵庫は中に物をあまり詰め込みすぎないようにしている	1,820	606	146	570	3,142
省エネルギー性能の高い冷蔵庫を使用している	716	679	453	1,294	3,142

4) 移動に関すること

近所への移動は自動車を使用せず、自転車や徒歩にしてすることに現在取り組んでいるという回答が47%と多い。次いで、エコカーや軽自動車等燃費性能の良い自動車を使用すること（30%）、エコドライブを励行すること（28%）の順であった。

図 20 移動に関すること

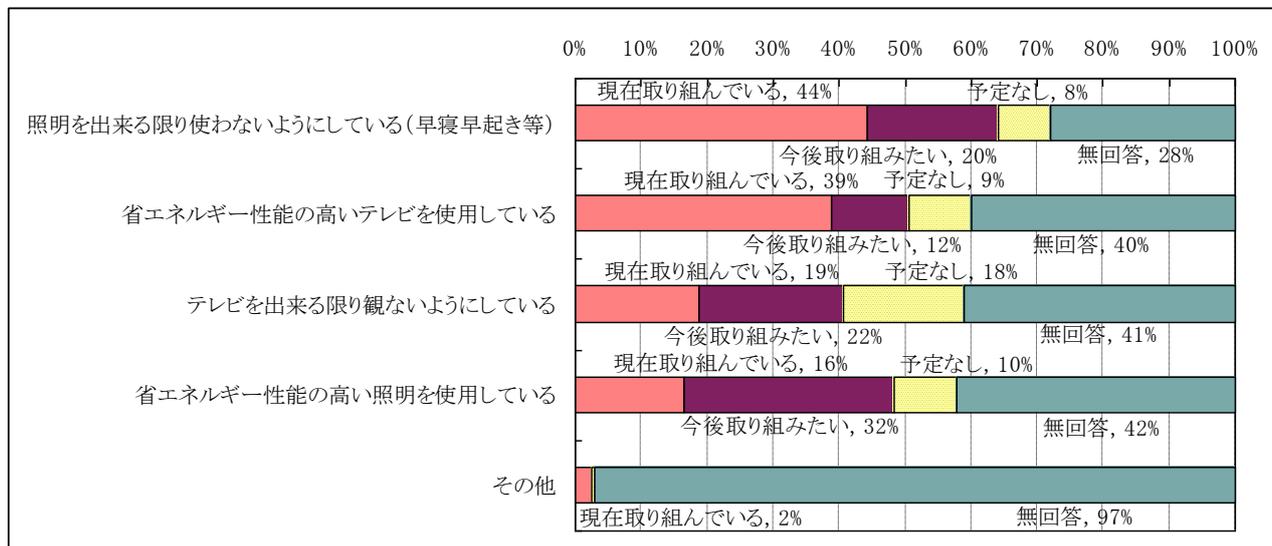


選択項目	現在取り組んでいる	今後取り組みたい	予定なし	無回答	合計
近所への移動は自動車を使用せず、自転車や徒歩にしている	1,485	516	316	825	3,142
	47%	16%	10%	26%	100%
エコカーや軽自動車等、燃費性能の良い自動車を使用している	939	575	405	1,223	3,142
	30%	18%	13%	39%	100%
エコドライブを心がけている	927	537	265	1,413	3,142
	30%	17%	8%	45%	100%

5) その他の生活に関すること

照明を出来る限り使わないようにすること（早寝早起き等）に現在取り組んでいるという回答が 44%、省エネルギー性能の高いテレビを使用することに現在取り組んでいるという回答が 39%と多い。また、省エネルギー性能の高い照明を使用することは、今後取り組みたいという回答が 32%と多い。

図 21 その他の生活に関すること



選択項目	現在取り組んでいる	今後取り組みたい	予定なし	無回答	合計
照明を出来る限り使わないようにしている(早寝早起き等)	1,388	626	249	879	3,142
	44%	20%	8%	28%	100%
省エネルギー性能の高いテレビを使用している	1,220	371	297	1,254	3,142
	39%	12%	9%	40%	100%
テレビを出来る限り観ないようにしている	590	690	574	1,288	3,142
	19%	22%	18%	41%	100%
省エネルギー性能の高い照明を使用している	517	1,001	300	1,324	3,142
	16%	32%	10%	42%	100%
その他	76	3	13	3,050	3,142
	2%	0%	0%	97%	100%

【その他の回答】

使用しない家電の電源を切る (17)、使用しない家電のプラグを抜く (13)、こまめに照明を消す (9)、夜間料金で洗濯、食器洗浄、炊飯を心がけている (3)、便座は通電 OFF とし、布シートで代用 (3)、エアコンを使わない (3)、お風呂は温泉に行っている (2)、冷暖房をこまめに切り、照明少なくし暗いところにいる (2)、風呂水で洗濯、米のとぎ汁で草花の水やり (2)、やかん・鍋で湯を沸かすとき、まず水を入れ、日光にあてて温めてから火にかける、湯たんぽを冬季利用している、二重のサッシ・断熱材の使用、家族が居間で就寝まで一緒に過ごす、夏の下着は発汗性の良いものを着用し冬は保温性の優れているものを着用、テレビは買わない、無駄な水は使用しないようにしている、暖房については薪ストーブを使う予定、電気ポットを夏は使用せず飲む分だけその時わかず、お茶は保冷ポットで使用し冷蔵庫の開閉を少なくしている

【特に心がけていることがない場合の理由】

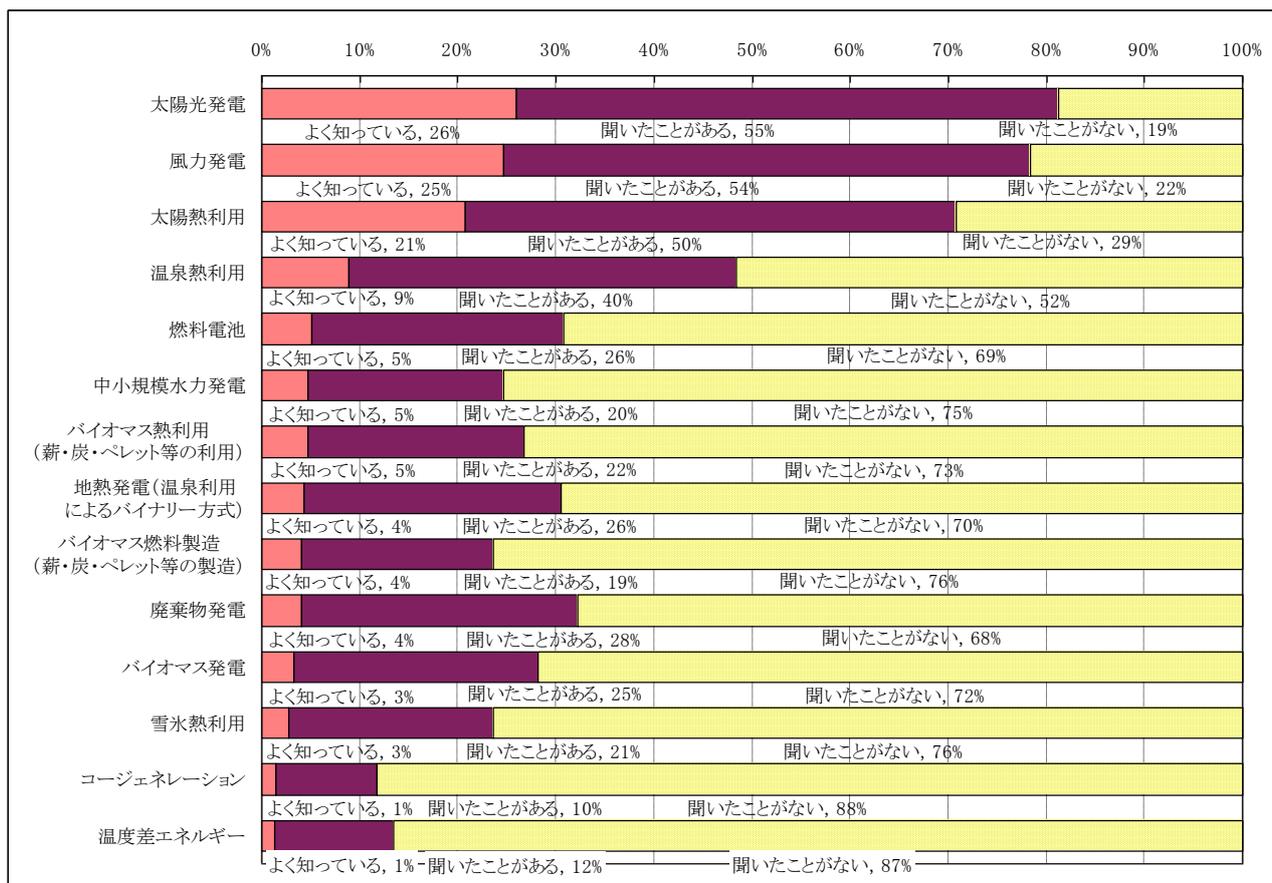
省エネルギー化にはコストがかかる (4)、日頃より、節度のある生活をしているので、特に心がける必要がない (4)、高齢者であり健康で快適な生活 (熱中症対応や風邪対策など) が第一と考えている、独居老人でこの家も私までなので何の考えもない

C. 再生可能エネルギー等について

問⑤-1. 再生可能エネルギー等の種類について、「1）よく知っている」また「2）聞いたことがある」ものについて、あてはまる番号を全て選び、○を付けてください。

認知度の高い再生可能エネルギーでは、太陽光発電、風力発電、太陽熱利用が「よく知っている」という回答が、それぞれ26%、25%、21%と多い。また温泉熱利用について「聞いたことがある」との回答が40%と多かった。

図 22 再生可能エネルギーについての認知

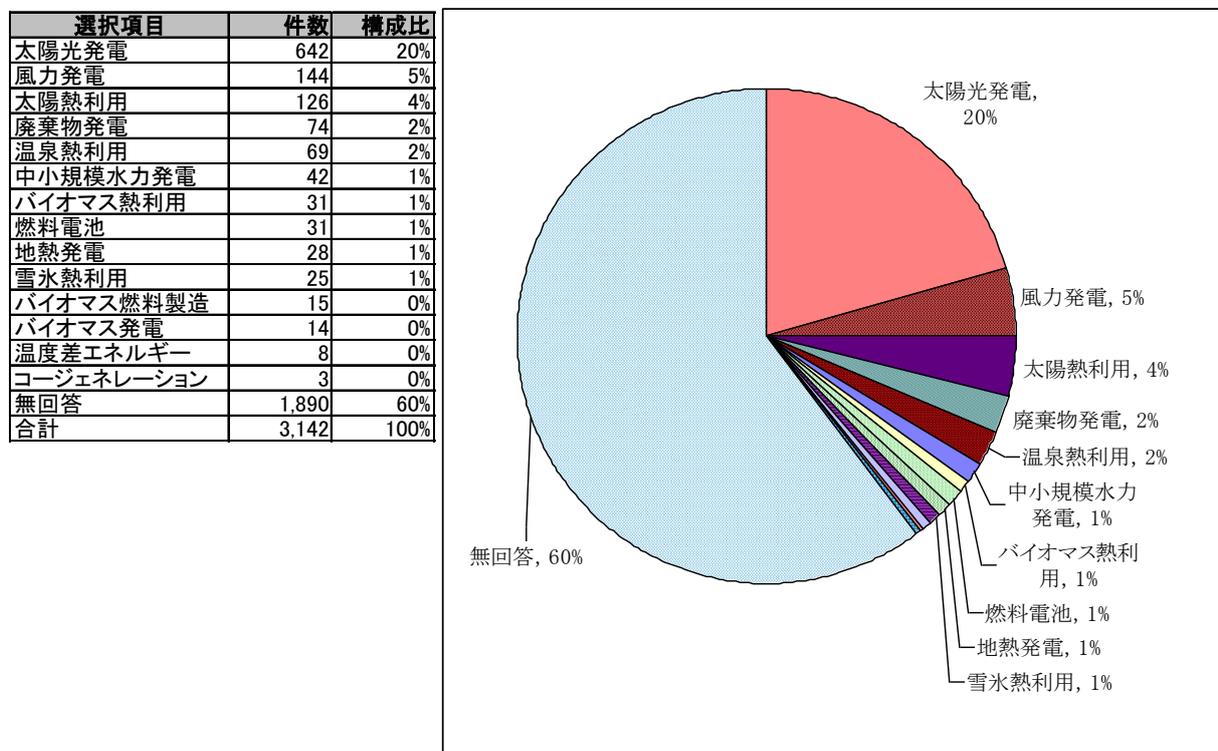


選択項目	よく知っている	聞いたことがある	聞いたことがない	合計
太陽光発電	815	1,736	591	3,142
	26%	55%	19%	100%
風力発電	776	1,688	678	3,142
	25%	54%	22%	100%
太陽熱利用	651	1,573	916	3,142
	21%	50%	29%	100%
温泉熱利用	277	1,244	1,621	3,142
	9%	40%	52%	100%
燃料電池	161	807	2,174	3,142
	5%	26%	69%	100%
中小規模水力発電	148	626	2,368	3,142
	5%	20%	75%	100%
バイオマス熱利用 (薪・炭・ペレット等の利用)	147	691	2,304	3,142
	5%	22%	73%	100%
地熱発電(温泉利用 によるバイナリー方式)	135	823	2,184	3,142
	4%	26%	70%	100%
バイオマス燃料製造 (薪・炭・ペレット等の製造)	128	612	2,402	3,142
	4%	19%	76%	100%
廃棄物発電	125	887	2,130	3,142
	4%	28%	68%	100%
バイオマス発電	103	782	2,257	3,142
	3%	25%	72%	100%
雪氷熱利用	86	657	2,399	3,142
	3%	21%	76%	100%
コージェネレーション	44	324	2,774	3,142
	1%	10%	88%	100%
温度差エネルギー	43	378	2,721	3,142
	1%	12%	87%	100%

問⑤-2. 再生可能エネルギー等の種類について、「3) 最も関心がある」ものについて、あてはまる番号を1つだけ選び、○を付けてください。

最も関心のある再生可能エネルギーは、「太陽光発電」が20%と最も多く、次いで「風力発電」(5%)、「太陽熱利用」(4%)の順となっている。

図 23 最も関心のある再生可能エネルギー

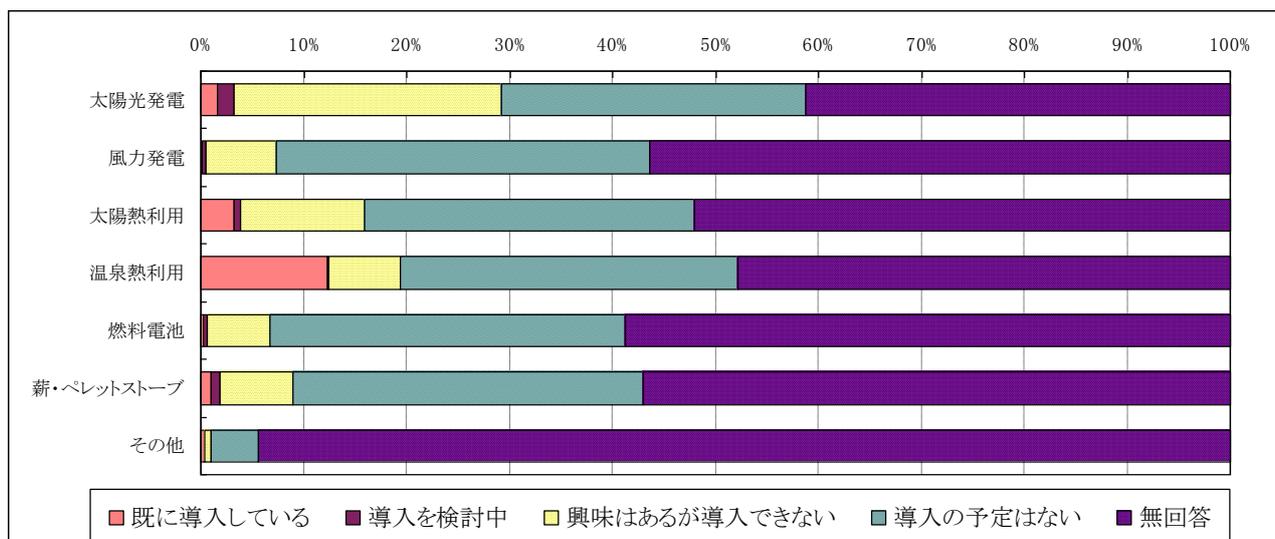


問⑥. あなたのご家庭では、再生可能エネルギー等や省エネルギーの機器・製品を導入されていますか。あてはまる機器・製品を全て選んで○を付け、導入してからのおおよその年数を記入して下さい。(複数回答可)

既に導入している再生可能エネルギー機器の回答では、温泉熱利用(385件)、太陽熱利用(103件)、太陽光発電(49件)、薪・ペレットストーブ(30件)が多い。導入を検討中の機器で多いのは太陽光発電、太陽熱利用、薪・ペレットストーブの順となっている。

興味はあるが導入できない機器では、太陽光発電、太陽熱利用、薪・ペレットストーブ、風力発電、温泉熱利用が多い。導入の予定が無い機器で多いのが風力発電、燃料電池、薪・ペレットストーブ、温泉熱利用の順となっている。

図 24 再生可能エネルギーの導入状況



選択項目	既に導入している	導入を検討中	興味はあるが導入できない	導入の予定はない	無回答	合計
太陽光発電	49	51	818	928	1,296	3,142
	2%	2%	26%	30%	41%	100%
風力発電	4	10	218	1,137	1,773	3,142
	0%	0%	7%	36%	56%	100%
太陽熱利用	103	19	376	1,007	1,637	3,142
	3%	1%	12%	32%	52%	100%
温泉熱利用	385	6	217	1,032	1,502	3,142
	12%	0%	7%	33%	48%	100%
燃料電池	8	10	192	1,087	1,845	3,142
	0%	0%	6%	35%	59%	100%
薪・ペレットストーブ	30	27	224	1,070	1,791	3,142
	1%	1%	7%	34%	57%	100%
その他	12	1	19	145	2,965	3,142
	0%	0%	1%	5%	94%	100%

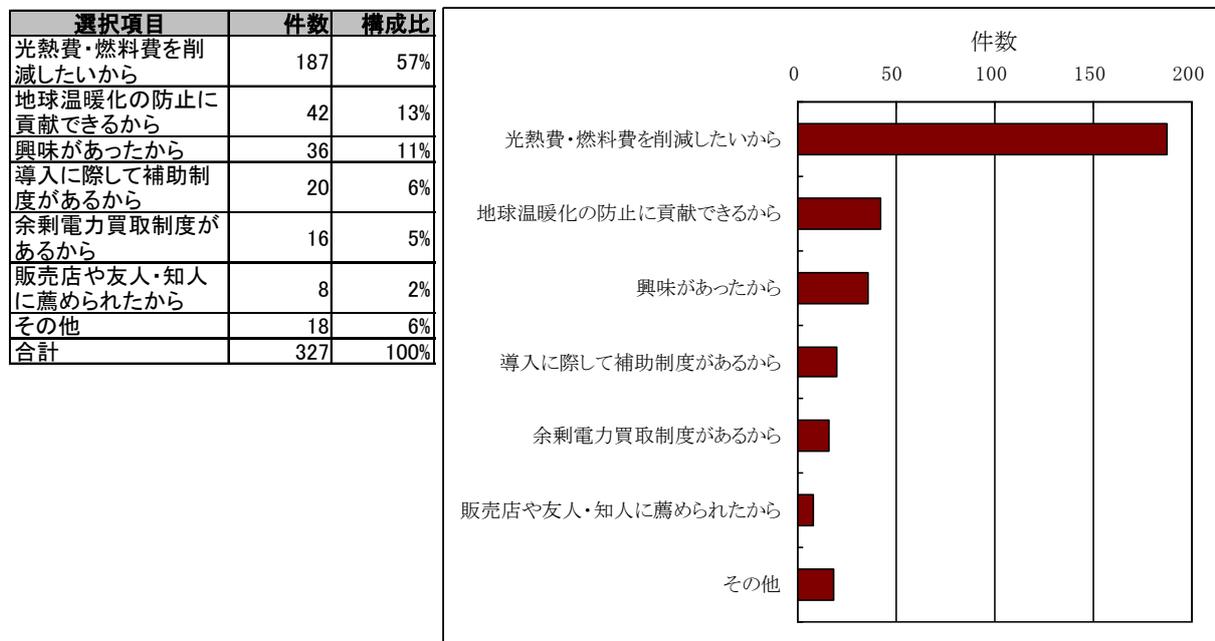
【その他の回答】

豆炭、エコキュート、薪ボイラー、水力発電、コージェネレーション、ヒートポンプ、電気蓄熱暖房機

問⑦. 問⑥で1つでも「既に導入している」または「導入を検討中」を選択した方にお聞きします。再生可能エネルギー等の機器・製品を導入された（または検討されている）最大の理由は何ですか。あてはまる番号を1つだけ選び、○を付けてください。

「光熱費・燃料費を削減したいから」という回答が187件と最も多い。

図 25 「既に導入している」または「導入を検討中」である理由



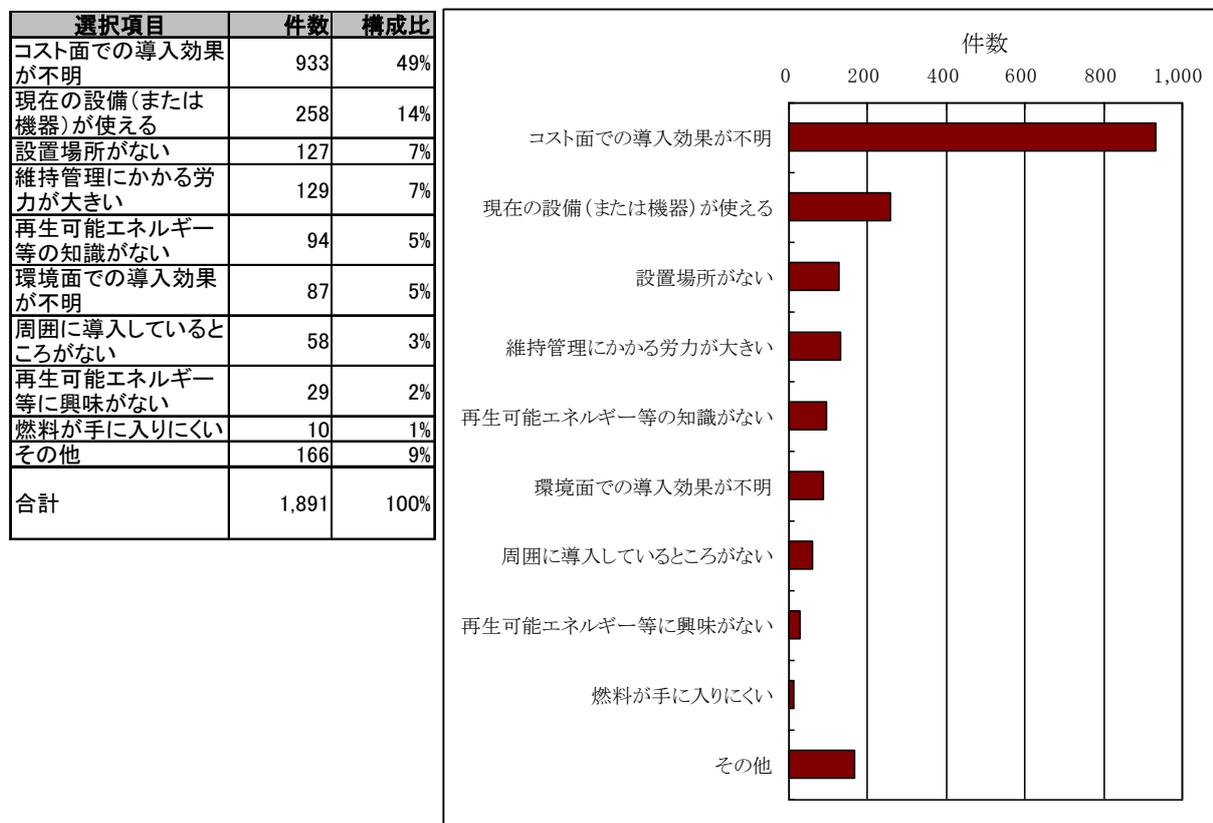
【その他の回答】

借家に住んでいて温泉が引いてあるから、便利だから、行政主導による温泉利用の仕組みがあるから、温泉を利用して生計をたてているから、エネルギーの自立のため、資源を有効に活用するため、熱効率が良く暖かいから、自家泉源があるから、温泉が出るから、現在の機器の交換時期がきたから、自然な温かさが心地よいから、自然エネルギーに強い関心があったから。

問⑧. 問⑥で 1 つでも「興味はあるが導入できない」、または「導入の予定はない」を選択した方にお聞きします。導入できない（ご予定のない）最大の理由は何ですか。あてはまる番号を 1 つだけ選び、○を付けてください。

「コスト面での導入効果が不明であるから」という回答が 933 件と最も多い。

図 26 「興味はあるが導入できない」、または「導入の予定はない」である理由



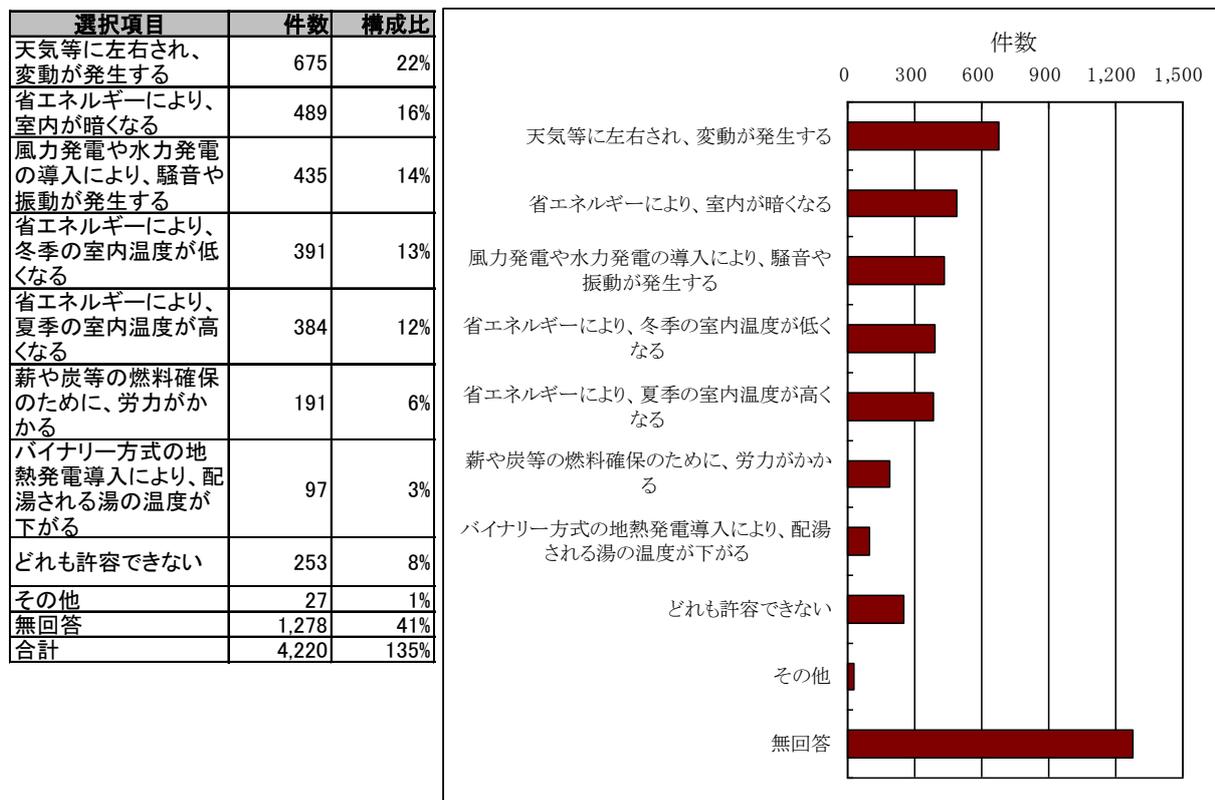
【その他の回答】

経済的にゆとりがない (73)、賃貸のため (24)、雪量が多いため (17)、高齢者であるため (10)、日照条件が悪いため (8)、家が古いため (6)、集合住宅のため (3)、今の所考えていない (3)、必要ない (3)、浜坂は潮風等でサビが出るため (2)、温泉がひかれていない (2)、現在の生活に満足しているため、引っ越し可能性があるため、関わる時間が無い、行政が取り組んでいないため、太陽光発電に興味はあるが立地条件が合わない (お寺の大木が屋根を陰にする)、屋根が瓦でその上に設置すれば重量が重なり、耐震に関係するのではないか不安

問⑨. 再生可能エネルギー等の導入や省エネルギーについて、ある程度の不便がある可能性があります、どの程度なら許容できますか。あてはまるものに2つまで○を付けて下さい。

天気等に左右され変動が発生する、省エネルギーにより室内が暗くなることに関しては許容されやすいことが窺えた。薪や炭等の燃料確保のために労力がかかることは許容されにくいことが窺えた。

図 27 再生可能エネルギー等の導入や省エネルギーについて許容できる不便



【その他の回答】

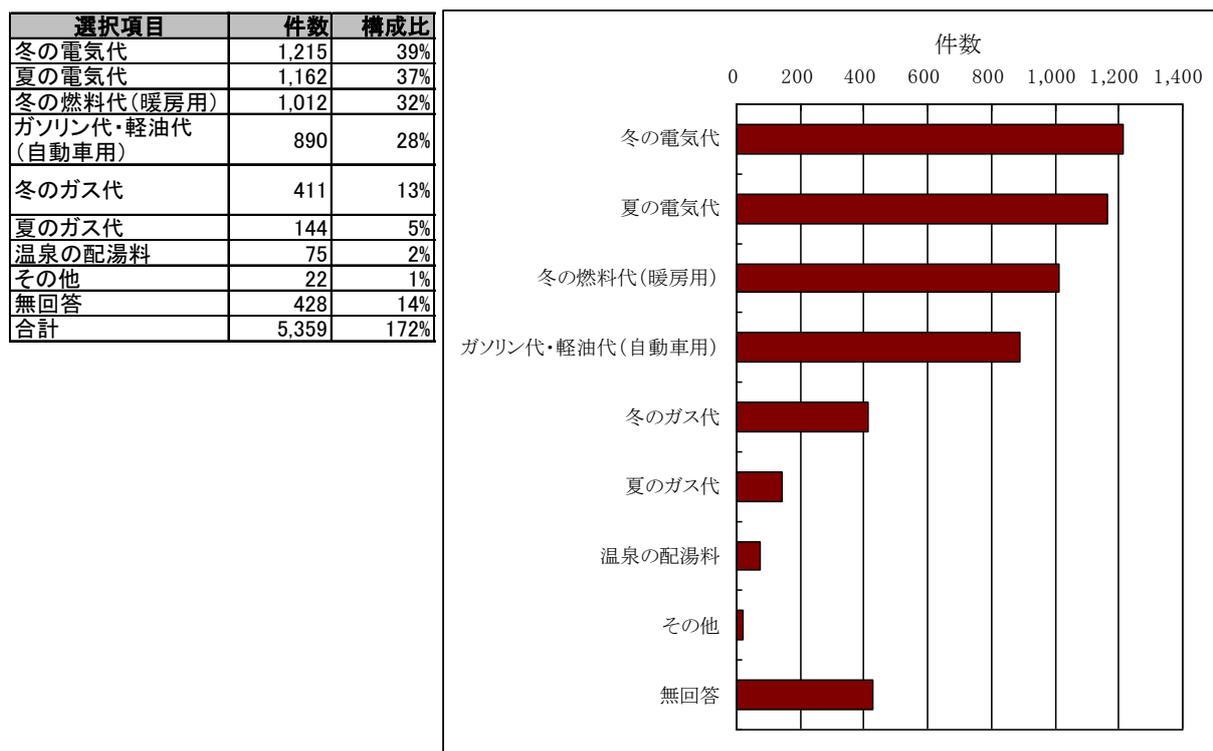
昭和 30 年頃を思えば不便はない、不便になってから対応する

D. 経済的負担について

問⑩. 光熱費の中で何を減らしたいと考えますか。あてはまるものに2つまで○印をつけてください。

冬の電気代を減らしたいという回答が 1,215 件と最も多く、次いで夏の電気代 (1,162 件)・冬の燃料代 (暖房用) (1,012 件) の順となった。ガス代については減らしたいという回答が少なかった。

図 28 光熱費の中で減らしたい項目



【「冬の燃料」の種類】

灯油 (441)、軽油 (4)、電気 (9)、ガス (6)、薪、豆炭

【その他の回答】

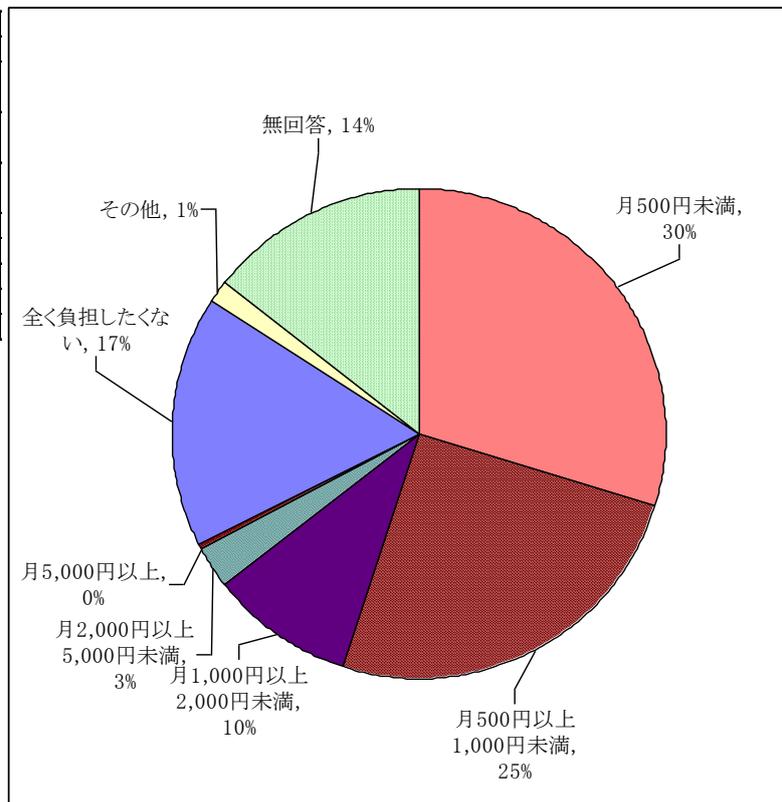
年間の電気代を節約したい (4)、全部を少しずつでも減らしたい (3)、今無駄遣いしていない (4)、水道代を減らしたい、魚の水槽を減らしたい、冷蔵庫を省エネのものに変えたい、無駄な照明を減らしたい、灯油の暖房機か電気の暖房機かどちらかひとつで良いと思う、材具を変えたいと思う

問⑪. 環境にやさしい社会をつくる上では、環境税などの形で経済的負担が求められる可能性があると言われていいます。あなたはどの程度なら経済的負担が増えてもよいと考えますか。あてはまるもの1つに○印をつけてください。

月 500 円未満なら負担してもよいという回答が 30%、月 500 円以上 1,000 円未満なら負担してもよいという回答が 25%と多い。

図 29 環境のために増えてもよい経済的負担

選択項目	件数	構成比
月500円未満	933	30%
月500円以上1,000円未満	792	25%
月1,000円以上2,000円未満	303	10%
月2,000円以上5,000円未満	84	3%
月5,000円以上	8	0%
全く負担したくない	526	17%
その他	45	1%
無回答	451	14%
合計	3,142	100%



【その他の回答】

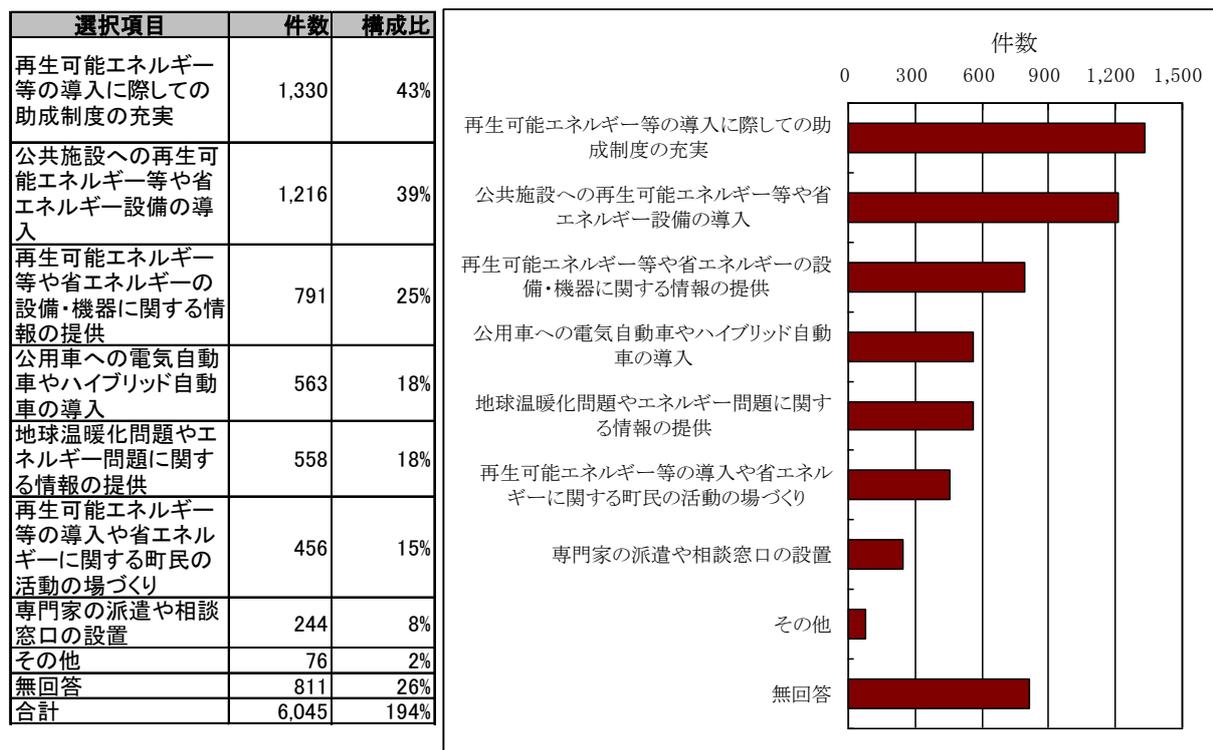
税を上げる前に無駄の徹底的な削減を国にはお願いしたい (7)、できるだけ少ない方がよい (4)、良い社会をつくる上なれば構わない (3)、大口事業者が負担すべき (3)、用途を環境にかぎるのならある程度の負担は構わない (2)、負担する余裕はないが、それでもできる限りの事は考えたい、みんなが平等に苦勞するなら金額はいくらでもよい、地域の差に合った対応であってほしい

E. 新温泉町の今後の取組について

問⑫. 再生可能エネルギー等の導入や省エネルギーについて、町としてどのような施策に力を入れていくべきだと思いますか。あてはまるものに3つまで○を付けて下さい。

町の施策としては、「再生可能エネルギー等の導入に際しての助成制度の充実に力を入れるべき」という回答が 1,330 件と最も多い。次いで「公共施設への設備の導入」(1,216 件)、「設備・機器に関する情報の提供」(791 件)の順となっている。

図 30 町として力を入れていくべき施策



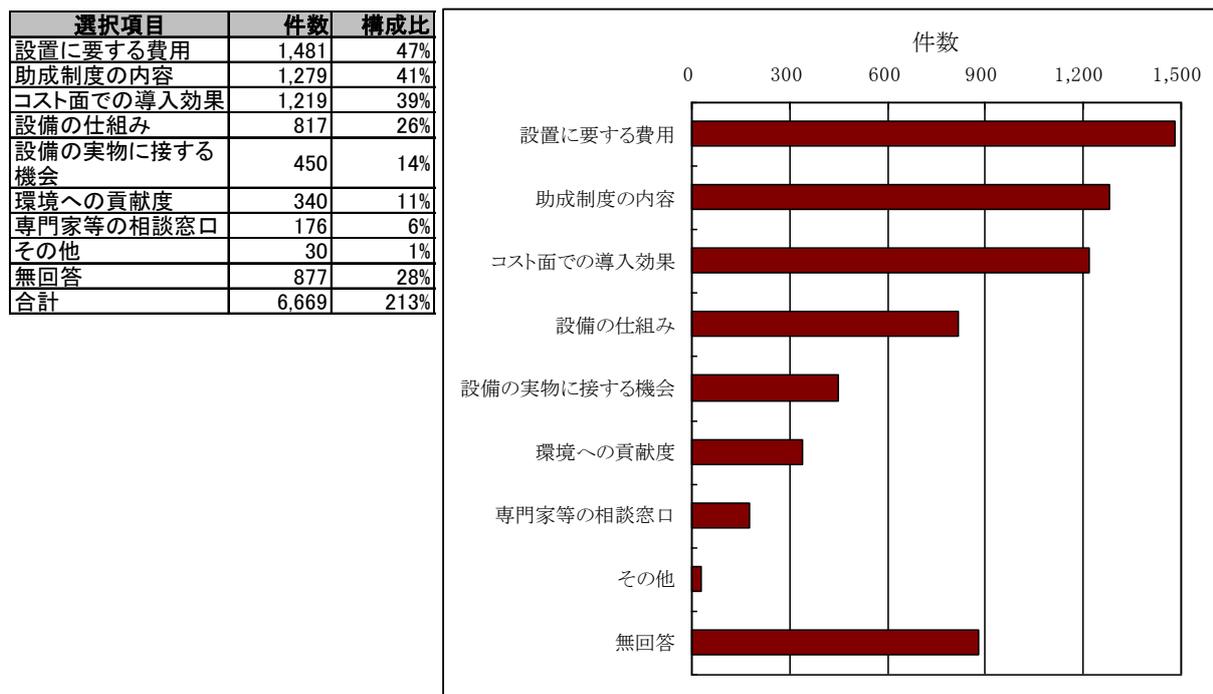
【その他の回答】

公用車の無駄な使用の削減 (7)、町財政に見合う計画 (4)、公共交通の利用促進 (4)、公共施設等の不要な照明等はこまめに切ること (3)、人件費も含めコストバランスの取れた省エネルギーに取り組むこと (2)、自治体での風力発電導入 (2)、公共施設等での再生可能エネルギーの導入費用や効果を町民に公表する (2)、長期的な計画、旧坂浜小学校区での自転車利用促進、人口減少に対応した施策、特にジオパーク館など公共施設での太陽光発電導入、大学用地の跡地への風力発電導入、温泉を利用した再生可能エネルギー導入、個人向け太陽光発電や水力発電の推進、余剰電気を自治体買い取る、災害を少なくするために山の木を使用してほしい、マイカー通勤の抑制、配湯の拡大、風呂での薪使用促進、降雪に対する対策、市民出資による再生可能エネルギー導入、シャープの亀山工場誘致の様にまちがプロジェクトチームを作り勉強すること

問⑬ 再生可能エネルギー等や省エネルギーの設備を導入する場合に、どのような情報が欲しいと思いますか。(既に導入されている方は、“どのような情報が充実していると便利か”という観点からお答えください) あてはまるものに3つまで○を付けて下さい。

ほしい情報としては、「設置に関する費用」(1,481件)、「助成制度の内容」(1,279件)や、「コスト面での導入効果」(1,219件)という回答が多い。

図 31 再生可能エネルギー等や省エネルギーの設備を導入する際に欲しい情報



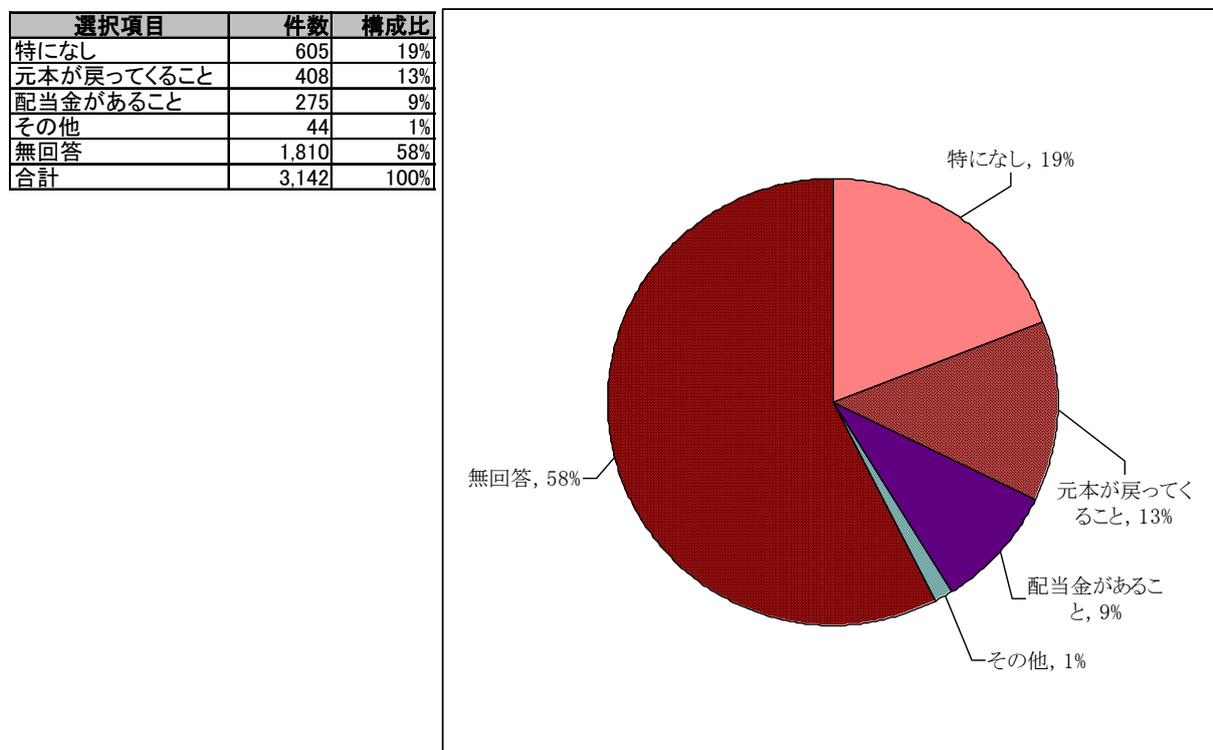
【その他の回答】

維持管理費(但馬地域を考慮したもの)(2)、積雪対策(2)、設備投資による負担と借入金返済期間と利益効果試算の公表、コストが高くても新温泉町の自然を利用し且つ町民にメリットがあればよい、導入後何年で元が取れるか、全て必要、町の取組体制、降雪に伴う設備の効率性及び維持費用等、耐用年数、気候条件的に太陽光発電が可能なかどうか、風力発電の設置場所が確保できるのかどうか

2) 出資金額以外の参加の条件

出資金額以外の参加の条件については「特になし」という回答が19%と最も多く、次いで「元本が戻ってくること」(13%)、「配当金があること」(9%)の順であった。

図 34 出資金額以外の参加の条件



【その他の回答】

光熱費の減額、導入効果を知りたい、気持ちはあるが漠然として具体的に考えられない、安心安全で良いものができたら良いと思う、電気代や光熱費などが無料になること、太陽光パネルなら参加してみたい、温泉の熱エネルギーを利用することなら参加してみたい、協力はするが出資したくない、まちが研究をして主導すべき、採算性が気になる、未来が良くなることなら参加したい、一般家庭に負担をかけるようなことはしない方がよい、設備の大きさ(容量)、再生可能エネルギーが利用できること、取組が継続出来ればよい、自分の家にも導入できること、まともな設備(国産であること、最新のものであること、対費用効果の高いものであること)、自家消費が賄えること、導入後の修理や補修が発生した場合の費用負担が問題、積雪関係の対策等が具体的に知りたい、出資したお金の収支明細、電力供給がストップした時などに公共機関(役場、医療機関)への電力供給が行われる仕組みづくり

F. 自由意見

問⑩. 再生可能エネルギー等導入や省エネルギーに関する取組に関してご意見・ご要望、又はアイデアなどがありましたら、ご自由にお書きください。

【回答内容（抜粋）】

- ・ 「省エネ先進地の町」などとして新温泉町が補助（太陽光、エコカーなど）を出して省エネをすすめる、「日本一のエコの町」として取り組みを行う。
- ・ アンケートの段階で終わらせず、我新温泉町でも取り組み可能な物を具体的に住民にどんどん示してほしい。1つにしぼらず選択可能な提案をしてもらえればありがたい。「どうしよう、どうしよう」と言っている間に時代の流れに流されて、活気がどんどんなくなり将来に希望が持てません。若い世代には耐えられない事だと思います。
- ・ エネルギー施設導入で元金確保、配当金を目玉に出資参加募集する前に施設維持だけで多大な費用が必要であり、電力相場の値が下がる時もあり等、赤字経営になる前、後の対策、計画が十分精査されないで世間のトレンドに乗るのはどうでしょうか。結局十年後には町の借金が何億増えただけになるのではないのでしょうか。行政担当方々は定年がくれば後は責任取る必要がないので、将来の町の姿などどうでもよいのかもしれないですね。
- ・ エネルギー問題は今から子供や孫、その孫まですべての世代で重要なこと。多少無理してでも1日も早く何かに取りかかることを望んでいる。そのために必要な資金や予算は町として決断し、事業をとりやめていくことで、私たちの後の世代に負の遺産を残さないようにしてほしい。
- ・ エネルギー問題は町にとって大切なものですが、できることは限られています。国、県、民間にまかせるべきと考えます。（町は素人集団である）
- ・ この夏でも私の家の玄関の温度計を見ると39℃くらいの日もあり、すごい太陽の熱だなあと、これをエネルギーに変えることが出来ると本当にいいと思っています。
- ・ ごみもエネルギー源とし、廃棄物発電や熱エネルギーの利用を考えるべきです。
- ・ せっかくの98度の熱泉を省エネに利用できる方法など提示して頂くと考えやすい。どう利用できるのかどのくらい費用がかかるのか等情報を得たい。
- ・ ソフトバンクのメガソーラー発電等のニュースを見ますが、新温泉町には無理だと思われます。風力発電や地熱発電ならよいと思います。
- ・ まずは公的な機関において、先に太陽光発電や、太陽熱利用、また電気自動車などを実際利用してみてその効果を住民に理解してもらった方がいいと思います。お金のない町民に、負担を強いることがないように助成制度などしっかり考えて頂きたいと思います。
- ・ まず原点に立って考える問題である。高齢老人家庭の増加によって将来の不安の中、高額な投資などありえないし負担も出来ない。全面的に行政が負担してもコスト高の利用料金は負担に耐えられるものではない。出資金を拠出するにも不況下にあって??である。はっきり言って夢物語である。
- ・ 一人暮らしで省エネ生活なので、特段の設備等は必要ない。
- ・ 温泉の配管や使用料をもう少し下げて、全家庭で使えるように推進したらどうかと思います。やっけていて気持ちのいいエコでいいと思います。
- ・ 何をしても設備費がかさみます。元を取るためには数年の月日が必要となります。太陽光を設置していますが、関電の買取価格が現在＝48円で割が良いが、また最初の買取価格に戻ることはあり得ます。現在だけを見ず、設備費の元が早く取れる位の設備開発をお願いしたい。
- ・ 環境を考えると、こうした取り組みはもちろん大切だし、誰もが真剣に考えなければならないと思っているが、このアンケートのそうしたものにかえていけば、負担も当然あるという、生活者負担からスタートするような発想で町がやろうとするならすんなりと賛成はできない。生活にゆとりがあ

ると答えられる町民はそんなにはいないと思う。かえたくてもかえられる余裕がないという町民がほとんどだと思う。そこに安易に税をあつめます。公共料金をあげますといわれても賛成できかねる。

- ・ 環境保護に取り組む場合、リスクが伴うのは仕方がないと思うところもあります。設備、コストなどの情報提供を十分に行い、多くの方達の賛同が得られる対策案をまとめて、少しでも環境改善が前進することを期待するとともに、協力もしていきたいです。
- ・ 今年の夏は節電の年となりました。1世帯に1人が省エネの意識を高め、無駄なエネルギーはなるべく使わない。良い意味である程度昔に返る生活にもどれば良いのではないのでしょうか。
- ・ 原子力にかなうものはない、20年は。
- ・ 原子力に頼らない事、最優先にして欲しい。再生可能エネルギー、自然エネルギーに取り組む事は素晴らしい事だと思います。どんどんと進めていく事に賛同します。しかしお金がかかる事ですので年金生活者に負担がかからないよい方法はないのでしょうか？
- ・ 原発事故や災害がありエネルギー（電気）の問題は重要事項であることは間違いないが、町財政を圧迫することなく、熟慮に熟慮を重ねて確実に進めて頂きたいです。個人的には早くなれば良いと思っています。
- ・ 公共施設で前年に対して、どれだけ光熱費の経費を削減したか数字で見たい。
- ・ 公用車での利用効果、利用状況等を公表し、町としてエネルギーの再利用や省エネ等の取組を公開し町民に周知させることが第一歩である。例えば公民館、役場で行っている冷暖房温度の調節であるとか、グリーンカーテン等は良い例である。
- ・ 高成長が期待できない（少子高齢化）今日においても、町政・町民の必須のエネルギー（電気・ガス・水道等インフラ）についても、ローコストを意識・探求する町（街）づくりが急務であり、その余力について福祉等に充当させる工夫が求められていると考えます。今回のアンケートを発展的に進めてください。期待しています。なおアンケート中にもありましたが、風力は反対します。隣市の朝来市では騒音（低周波）による健康被害が想起されています。
- ・ 国・県・町の助成制度の充実を願う。
- ・ 国や県等が積極的に取り組み、具体的な方法を示してほしい。また、新エネルギーの機器や製品についても効果、費用等について、よくわかるように住民への説明会をもってほしい。
- ・ 再生エネルギーの取り組みをするにせよ、町民に負担はでます。やはり、雇用及び所得が向上をさせることこそが一番です。そこも考えて頂きながら取り組みを実施していくならば、ある程度は町民は
 - 理解し協力していくと思います。ただ、助成金をバラまく形に終わらないことを望みます。
- ・ 再生エネルギー等の用語、解説等の担当者の設置を作り、住民への説明会等を開き、話などの場を設置していただきたい。アンケートの資料だけではわかりにくい点も有りました。
- ・ 再生可能エネルギー等の導入も必要になってくるが、それには費用も相当かかると思う。それ以前に今の生活の中で節約して、電気も他の消費等を不必要（ごみの減量等）なものを使わない社会を目指すことが大事と思うが。
- ・ 昨年、太陽光発電を検討し、大手メーカーと交渉したが山陰地方では日照時間が少なく冬期が積雪寺等で現在のパネルでは効果が期待できないとの結果になりました。町として今後それらを導入推進する上で「現在」のパネルシステムを安易に進めるべきではないと考えます。
- ・ 山が荒れていて自然災害が多く発生しています。バイオマス燃料用に利用すると水害がなくなると思う。
- ・ 自分の家での消費電力は、自分の家で発電して消費する。生活は自分で回す。このような考えで生活パターンを考えています。今の社会は新しく、新しくと進みつつあります。どうして新しくではなく、昭和戦後の頃を見据えて考え直してみたいと思っています。山があり、谷があり、水があります。（私の集落は小水力は発電がよいと思っています。）
- ・ 実用にはまだほど遠いと思われませんが、日本海を利用する波力発電、温度差発電の実用に向けた事が出来るように望みます

- ・ 取り組みを真剣に考える時代になったと思います。他町計画に遅れないように大いにピーアールして賛同できる努力をお願いします。
- ・ 取り組む場合、そのメリットに主眼が置かれがちと思いますが、デメリットに関する情報も十分に集めて検討してほしいと思います。
- ・ 集めたお金がどこにどれだけ使ったかなどを明らかにすれば納得して出資できる。
- ・ 住民の皆さままで費用出し合っていることは非常にいいことと思いますが、年老いている暮らしの人に今さらする必要があるのででしょうか。それより老後の心配が私たちには必要です。年老いていない若い人がいる家庭はされるべきでしょう。
- ・ 新温泉町の予算を考えても、とても難しいことだと思いますが、公務員の給料など削減して、予算がこれだけありますが参加して頂けますか？というように進めてほしい。
- ・ 少子化や高齢化が進む新温泉町においては、一般家庭に導入を進めるには、それまでに解決すべき事が数多くあります。まず公共施設や企業、病院、スーパー等の人の集まる施設から導入すべきだと思います。地震、津波、台風水害等の発生を見ていると太陽光発電や風力発電もライフラインを守るうえで公共施設（学校、病院、役場）にはある方が望ましいと思います。一般家庭の導入には役場職員の熱意如何です。
- ・ 新温泉町には温泉があり、その熱を利用しない手は無いのではないかと。地熱発電、温泉熱利用等を事業と出来れば、雇用の場も増えるのではないかと。この地域の特色を活かしたものが良いと思う。
- ・ 新温泉町での風力、地熱等発電は赤字となると思うので取組はやめてほしい。
- ・ 新温泉町の気候を考えると、一年を通して太陽の出ている日数は少なく、高額な設備を投じてそれにみあうエネルギーを得られると思われぬ。その中でも風力はこの町にあっていてと思います。一番関心があります。いつも海の波が高いのを目にしますが、波を利用した発電はないのでしょうか。
- ・ 新温泉町は温泉、海、山、風などの資源があるから海の中に風力発電を作ったり、温泉で電気作ったり、ごみで電気を作ったりいろいろ研究してください。外灯などは太陽電気パネル内蔵などで夜道を明るくする。新温泉町内でも自家発電を推進して防災に備えた方がいいと思う。
- ・ 数年前からテレビでバイオマス燃料製造等、チップやペレットの使用は見たことがあります。北海道などで利用されていた様です。このあたりも杉などの利用も可能では、 、 、 と思います。地熱発電も温泉地であるので興味を持っています。太陽光発電等に関しては、雨の多さや雪の問題もあり、興味はありますが、難しいのではと思っています。この地域だからこそ出来る事を考えていきたいです。
- ・ 草木等の野焼きは禁止されているが、現実にはなされている。特に農家は廃物の処理に困っている。町として個人に負担のかからない処理方法を考えて行くべきである。木材等の廃材は、公共施設等の燃料材としても活用できると考える。（処理機を導入して）回収場所、期日等を定めて回収（無料化）すれば、環境にやさしく、再生エネルギーの一助ともなり得る。
- ・ 太陽光発電の導入費用を借入する場合、分割払い、無利子、普及促進条例を創設して多くの家庭に設置できる補助金制度を設定してほしい。温泉配湯事業を促進したときのようにお願いします。海水満ち引きの水流を利用した発電を検討してはどうですか。三尾の大島と陸地との間の水流は最適かと思います。安定海水流発電を計画調査を始めてはどうでしょう。ジオパーク活性化、町の名所、エネルギー開発、三尾の大島に限らず調査をして、別な適合場所があればどこでも海水流発電エネルギー実現を。
- ・ 太陽熱、光があるが、日照時間の問題と雪が降る街に住んでいれば雪降ろし等コスト、耐久性、浜辺に住んでいると塩害とか問題があるのでは？
- ・ 大学跡地を利用して、太陽光パネル発電、風力発電を検討してはどうか。エコキュートは、エネルギーの節約になる（利用の仕方によっては）。核家族ではなく、同居世帯を推進して使用する部屋数を減らすことにより、省エネは可能である。子どもから大人まで節約の意識を個々が持つこと。また、その様な教育をすること。
- ・ 地域の環境を古来から考慮し、将来良かれと実施しても、遠き日に害を負担させることはさけるべきこと。再生可能エネルギー、地熱等活用のエネルギーなどの活用で将来的設備コスト等を見極め

ていただき、堅実なエネルギー政策をとっていただきたい。当地域は風力、太陽光利用は不安定となる。

- 中小河川、農業用用水路、上下水道施設等の場所に設置可能な小水力発電等も一つの考えではないかと思う。太陽光や風力と比べて、発電が天気要因に左右されにくいし、発電量の時間変動も小さく安定している強みがあります。ある程度の高低差があれば設置可能。今後の検討課題としてみてください。
- 町として各町内会、集落に出向き説明会を持つこと。各面について、具体的に説明すること。各家のメリットは、なぜ必要か、当町での可能性の程度、町のメリットは、どう利用するか、投資額は、町民の出資額（希望）は、町民の意識高揚への導きと満足感等について、熱意のある説明を要す。
- 東日本大震災や和歌山での大雨による災害の様に、いつあるかも知れない災害に対してライフラインに困らないエネルギー導入等を考えてほしい。
- 冬の雪の利用、夏まで保存してその冷気を利用できないだろうか。また、地下水を利用した冷暖房。うまい方法はないだろうか？
- 湯村の湯を湯区だけに配湯し川に垂れ流しているが、可能な限り各家庭に配湯すれば省エネになると思います。他地区にも配湯をお願いします
- 当地の再生可能エネルギーに関して専門的な（専門家による）リサーチは現在行われていないのか。山、海、温泉等身近な自然環境についての先進的な取り組みを期待したい。
- 日照時間、降雪雨等の問題があり、北但馬ではなかなか取組みにくい。取組やすい町のバックアップが多少なりともあれば助かる。新温泉町ならではの省エネ方法の導入を目指す。
- 年金生活で毎日ギリギリの生活で、お金のいることはこれ以上考えたくない。なんとか生きているという感じです。
- 風車は要りません。造らないでください。場所を取るだけであまり効果はないと思います。鳥取の方にも風車のある所がたくさんありますが、止まっている風車も多く、風向き・地形などよく考えて造らないといけないと思います。それより、太陽光パネルの助成をしてもらったほうが良いと思います。
- 風力発電には興味があるが、コスト面での問題が分かりにくいところがあり具体的な資料等を作成し、わかりやすくPRすることが大切だと思います。徳島県ではすでに実施している町があり、風力発電については取組みやすいのではないかと。
- 放棄地等再利用出来る土地で、パネル等設置する条件にあう場所であれば、取り組んでみてもよいと思う。その場合、地権者との合意のもとで極力費用のかからない条件で出来ることを望みます。